

## 令和7年度取組 掲載一覧

学校名・取組をクリック！

### 《小学校の取組》

No	校種	学 校	領域	取 組
1	小学校	<a href="#">岩国市立中洋小学校</a>	防災	<a href="#">危機管理課の方・地域の方と学ぶ避難所計画 ～4年生社会科「自然災害からくらしを守る」～</a>
2	小学校	<a href="#">柳井市立伊陸小学校</a>	生活	<a href="#">外部機関と連携した不審者対応訓練</a>
3	小学校	<a href="#">周防大島町立上島中小学校</a>	防災	<a href="#">地震・津波避難訓練</a>
4	小学校	<a href="#">上関町立上関小学校</a>	防災	<a href="#">防災学習に係わる避難所開設・運営体験</a>
5	小学校	<a href="#">田布施町立東田布施小学校</a>	生活	<a href="#">安心・安全な学校づくり</a>
6	小学校	<a href="#">周南市立湯野小学校</a>	生活	<a href="#">地域と連携した通学路点検を安全マップ作りに生かす</a>
7	小学校	<a href="#">下松市立下松小学校</a>	生活	<a href="#">危機管理対応力を向上させるシミュレーション対応訓練</a>
8	小学校	<a href="#">下松市立公集小学校</a>	複合	<a href="#">地域と連携した交通安全・災害安全の取組</a>
9	小学校	<a href="#">下松市立花岡小学校</a>	生活	<a href="#">危機管理対応訓練</a>
10	小学校	<a href="#">下松市立豊井小学校</a>	防災	<a href="#">地震対応 幼・小・地域合同避難訓練 下松市小中学校防災教育プログラム</a>
11	小学校	<a href="#">下松市立中村小学校</a>	防災	<a href="#">命を守る力と防災力を育む中村小学校防災プログラム</a>
12	小学校	<a href="#">光市立島田小学校</a>	防災	<a href="#">土砂災害を想定した避難訓練</a>
13	小学校	<a href="#">光市立上島田小学校</a>	防災	<a href="#">関係機関と連携した防災体験学習</a>
14	小学校	<a href="#">光市立光井小学校</a>	複合	<a href="#">安心・安全な学校づくりをめざした訓練や研修の実施</a>
15	小学校	<a href="#">光市立周防小学校</a>	生活	<a href="#">家庭や地域、関係機関と連携した通学路安全マップの作成と通学路点検</a>
16	小学校	<a href="#">山口市立佐山小学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した防災学習</a>
17	小学校	<a href="#">防府市立華浦小学校</a>	防災	<a href="#">地震津波対応避難訓練・華浦ウォークラリー</a>
18	小学校	<a href="#">防府市立佐波小学校</a>	複合	<a href="#">外部機関や地域と連携した安全教育・安全点検の実施</a>
19	小学校	<a href="#">防府市立松崎小学校</a>	防災	<a href="#">集団下校を活用した通学路の安全確認</a>
20	小学校	<a href="#">防府市立中関小学校</a>	生活	<a href="#">4年生「安全マップづくり」</a>
21	小学校	<a href="#">宇部市立恩田小学校</a>	生活	<a href="#">児童・保護者・教職員で協働した安全点検の実施</a>
22	小学校	<a href="#">山陽小野田市立須恵小学校</a>	防災	<a href="#">二次避難までを想定した避難訓練と引き渡し訓練</a>
23	小学校	<a href="#">下関市立向山小学校</a>	防災	<a href="#">地域で行う防火学校（火災予防・安全教育）</a>
24	小学校	<a href="#">下関市立王司小学校</a>	複合	<a href="#">安全管理充実のための取組</a>
25	小学校	<a href="#">下関市立川中西小学校</a>	防災	<a href="#">夏休み防災デイキャンプ</a>
26	小学校	<a href="#">萩市立椿東小学校</a>	複合	<a href="#">「椿東小学校区危険箇所 MAP」の作成</a>
27	小学校	<a href="#">萩市立越ヶ浜小学校</a>	防災	<a href="#">地震・津波対応避難訓練と防災学習</a>
28	小学校	<a href="#">萩市立椿西小学校</a>	防災	<a href="#">着衣泳教室</a>
29	小学校	<a href="#">萩市立育英小学校</a>	防災	<a href="#">関係機関と連携した避難訓練</a>
30	小学校	<a href="#">長門市立通小学校</a>	防災	<a href="#">授業等における安全学習</a>
31	小学校	<a href="#">長門市立向陽小学校</a>	防災	<a href="#">外部講師を活用し学んだ安全教育</a>
32	小学校	<a href="#">長門市立神田小学校</a>	防災	<a href="#">日置地区災害避難訓練</a>
33	小学校	<a href="#">長門市立油谷小学校</a>	防災	<a href="#">土砂災害対応避難訓練・引き渡し訓練</a>
34	小学校	<a href="#">阿武町立福賀小学校</a>	複合	<a href="#">I C Tを活用し、関係機関と連携した避難訓練</a>

## 《中学校の取組》

35	中学校	<a href="#">岩国市立錦中学校</a>	生活	<a href="#">不審者想定避難訓練</a>
36	中学校	<a href="#">和木町立和木中学校</a>	防災	<a href="#">和木町園小中合同避難訓練</a>
37	中学校	<a href="#">柳井市立柳井西中学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した防災学習</a>
38	中学校	<a href="#">周防大島町立大島中学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携・協働した合同防災訓練</a> <a href="#">「みなでみなを命を守る」安心・安全な町づくり</a> <a href="#">～大島中学校防災探究学習「わが町周防大島を災害から守る担い手になる」～</a>
39	中学校	<a href="#">平生町立平生中学校</a>	複合	<a href="#">様々な災害に対する避難訓練を通して、危機対応</a>
40	中学校	<a href="#">周南市立富田中学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携して行う防災意識向上の取組</a>
41	中学校	<a href="#">下松市立久保中学校</a>	防災	<a href="#">「安全の日」の取組</a>
42	中学校	<a href="#">下松市立下松中学校</a>	生活	<a href="#">危機発生時対応シミュレーション</a>
43	中学校	<a href="#">下松市立末武中学校</a>	生活	<a href="#">危機管理対応（熱中症への対応）</a>
44	中学校	<a href="#">光市立室積中学校</a>	防災	<a href="#">近隣幼稚園との合同による垂直避難訓練</a>
45	中学校	<a href="#">光市立島田中学校</a>	複合	<a href="#">外部人材を活用した避難訓練の実施</a>
46	中学校	<a href="#">防府市立牟礼中学校</a>	複合	<a href="#">完全ブラインド型の避難訓練</a>
47	中学校	<a href="#">防府市立小野中学校</a>	生活	<a href="#">1. 日時の予告なし不審者対応訓練</a> <a href="#">2. 生徒参加型安全点検の実施</a>
48	中学校	<a href="#">宇部市立西岐波中学校</a>	交通	<a href="#">交通面の安全教育の充実</a>
49	中学校	<a href="#">美祢市立美東中学校</a>	防災	<a href="#">「美東でまなぼうさい」（防災参観日の実施）</a>
50	中学校	<a href="#">山陽小野田市立高千穂中学校</a>	生活	<a href="#">AEDを使用した救急救命講習会</a>
51	中学校	<a href="#">下関市立勝山中学校</a>	防災	<a href="#">生徒が考える勝山中校区のKYT学習</a>
52	中学校	<a href="#">萩市立萩東中学校</a>	複合	<a href="#">想定演習を通して危機管理意識の向上を図る</a>
53	中学校	<a href="#">萩市立萩西中学校</a>	複合	<a href="#">地域や保護者と連携した防災のための環境整備活動</a>
54	中学校	<a href="#">萩市立田万川中学校</a>	防災	<a href="#">専門家等と連携した防災授業</a>
55	中学校	<a href="#">長門市立日置中学校</a>	防災	<a href="#">日置地区災害避難訓練</a>
56	中学校	<a href="#">阿武町立阿武中学校</a>	防災	<a href="#">「自分たちの故郷は自分たちで守る！」</a> <a href="#">（地域と連携した防災教育）</a> <a href="#">～地域防災の主体者となる生徒の育成～</a>

## 《小中一貫校の取組》

57	小中一貫	<a href="#">防府市立富海小中学校</a>	生活	<a href="#">事前に日時等を告げない不審者対応避難訓練</a>
58	小中一貫	<a href="#">萩市立三見小中学校</a>	防災	<a href="#">消火栓の放水訓練を取り入れた火災訓練</a>
59	小中一貫	<a href="#">萩市立大島小中学校</a>	防災	<a href="#">大規模地震想定緊急時二次避難体験</a>
60	小中一貫	<a href="#">萩市立見島小中学校</a>	防災	<a href="#">地域と連携した島内一斉避難訓練</a>

《県立学校の取組》

61	県立	<a href="#">山口県立岩国総合高等学校</a>	交通	<a href="#">自転車交通安全教育</a>
62	県立	<a href="#">山口県立高森みどり中学校</a> <a href="#">山口県立高森高等学校</a>	複合	<a href="#">警察と連携した犯罪被害・交通事故防止活動</a>
63	県立	<a href="#">山口県立岩国商業高等学校</a>	生活	<a href="#">教職員を対象にしたアレルギー疾患及び救急蘇生法等に関する研修</a>
64	県立	<a href="#">山口県立熊毛北高等学校</a>	複合	<a href="#">いじめ防止対策講演会及び交通安全運動マスコットの制作・配布</a>
65	県立	<a href="#">山口県立防府商工高等学校</a>	交通	<a href="#">生徒・保護者・教職員を対象とした交通安全意識の向上について</a>
66	県立	<a href="#">山口県立山口農業高等学校西市分校</a>	生活	<a href="#">救急体制の見直しを図る救急法研修会</a>
67	県立	<a href="#">山口県立宇部工業高等学校</a>	防災	<a href="#">ともに学び防災の輪を広げる合同保健委員会</a>
68	県立	<a href="#">山口県立下関北高等学校</a>	防災	<a href="#">熱中症予防と応急処置～実践から啓発活動へ～</a>
69	県立	<a href="#">山口県立下関工科高等学校</a>	防災	<a href="#">地震災害時の避難訓練（安全教育）</a>
70	県立	<a href="#">山口県立萩高等学校奈古分校</a>	防災	<a href="#">消火機器を実際に使用した避難訓練の実施</a>
71	県立	<a href="#">山口県立下関中等教育学校</a>	複合	<a href="#">災害時における避難訓練・AED講習会</a>
72	県立	<a href="#">山口県立山口南総合支援学校</a>	防災	<a href="#">地域と取り組む防災について</a>

取組名	危機管理課の方・地域の方と学ぶ避難所計画 ～4年生社会科「自然災害からくらしを守る」～		
特徴	岩国市危機管理課の方や地域の方からアドバイスをいただきながら、自分たちの考えた避難所計画について発表し、防災意識を高めた。		
学校名	岩国市立中洋小学校	期日	令和7年9月10日（水曜日）

## 1 ねらい

学校の体育館が避難場所となった時の避難所配置計画を、岩国市危機管理課の方のアドバイスや地域の方と話し合いながら考え、説明をする活動を通して、「共助」への理解と意識を高めることができる。

## 2 概要

### 4年生社会科「自然災害からくらしを守る」

- ・全10時間の単元。「山口県の実験災害」の特徴を知ったり、山口県の防災対策を調べたりする学習から、防災意識を高めることへも注力していることに気づくとともに、山口県が防災工事等ハード面だけでなく、県民へ正確な防災情報を早く届けていることを理解した。そして、岩国市の防災対策についても理解した。【公助】
- ・自分たちが避難所運営委員の一人となって、避難してこられる様々な人々に応じた避難所配置計画を話し合いながら考えた。
- ・児童から「この避難所配置計画で本当にいいのか。」という疑問がでた。そこで、避難所配置計画の説明発表会に、岩国市危機管理課の方や地域の方を招き、アドバイスをしていただきながら、よりよい避難所配置計画にする学習に取り組んだ。（本時）【共助】



【地域の方のアドバイス】



【危機管理課の方の話】



【計画案の修正】

- ・災害時に身を守るためには主体的な判断も欠かせないことに気づかせ、防災バックの必要な中身を考えた。【自助】



【考えを友達に説明】



【バッグには10個しか入りません。】



【先生にも聞いてもらいました】

## 3 成果と今後の課題等

危機管理課の方や地域の方のアドバイスをもらうことで、児童の考えた避難所配置計画が、単なる想像や予想で終わることなく、学習の成果として表現でき、防災について自分ごととして考える意識が強まった。また、障害のある人、小さな子どもや病気の人など様々な人たちが避難してくることを考えることで、相手の立場に立った考えをもつことができた。

取組名	外部機関と連携した不審者対応訓練		
特徴	外部機関（ALSOK）と連携した不審者対応訓練を行う。		
学校名	柳井市立伊陸小学校	期日	令和7年7月9日(水曜日)

### 1 ねらい

本校の校舎は公民館との複合施設となっており、地域住民等の出入りが日常的に行われている。人の出入りが容易な環境に置かれていることから、防犯・防災における公民館及び外部諸機関との連携は必須であると考えている。今回は外部機関（ALSOK）の事業である『あんしん教室』を活用し、これまでとは異なる視点での不審者対応訓練を実施した。

- 留守番中の危険について気付かせ、留守番中に不審者による犯罪被害に遭わないようにその対策を知り、対処方法を身につける。 (5・6年生)
- 登下校中の危険について気付かせ、登下校中に不審者に遭遇したときの対処方法を身につける。 (1～4年生)

### 2 概要

#### (1) 5・6年生「安心してお留守番」

- ・留守番中の危険性について、統計をもとに学ぶ。
- ・留守番中のやくそく5点を知り、なぜそれが大切なのかをグループで考える。

○ 家の鍵を見せない る	○ 周囲を確認して家に入る	○ 郵便ポストをチェックする
-----------------	---------------	----------------

- ・意見発表をする。実技を行う。
- ・まとめ（留守番ルールの確認。追加として留守番中に大規模災害が発生した場合の対処法、連絡方法についての指導。）
- ・事後指導→家庭での留守番ルールを再確認することや、今後、犯罪に巻き込まれないように自ら対応力を身につけることの大切さを確認。



ロールプレイングの様子

#### (2) 1～4年生「あんしんして登下校」

- ・これまで登下校中に危険なことはなかったかを思い出し、経験について発表する。
- ・「いかのおすし」の確認をする。
- ・不審者に遭遇した際のロールプレイングを行う。

○ 「いかない」「のらない」	→ 声をかけられたときのロールプレイングを行う
○ 「おおごえをだす」	→ “助けて”を発する練習
○ 「すぐにげる」	→ どこに逃げるのが適切かを考え、実演をする
○ 「しらせる」	→ 誰に知らせるとよいのか対応を考え、実技を行う

- ・対処方法を掲示図で確認する。
- ・まとめ（いかのおすしの確認、復習。あいさつの大切さの話。）
- ・事後指導→家を出るときは必ず行き先を告げることや不審者に遭わない場所・時間のもとで遊ぶこと、活動することを確認。

### 3 成果と今後の課題等

外部講師と連携した不審者対応避難訓練は、従来校内で実施していた訓練とは視点が異なるものも多く、有意義なものであった。児童自身、家庭・地域での過ごし方についてあらためて考える機会となった。教職員からも「プロによる訓練には説得力があり勉強になった」との声があがったので、今後もさまざまな内容・種別の避難訓練を行えるように計画をしたい。

避難訓練の定期的な実施により、児童に「自助」の意識をもたせられたらと思う。



取組名	地震・津波避難訓練		
特徴	地域や周辺施設、専門家と連携した合同避難訓練		
学校名	周防大島町立島中小学校	期日	令和7年11月6日（木曜日）

## 1 ねらい

- 地震、津波などの突発的な災害に備え、児童が安全迅速に避難できるようにする。
- 災害に対する関心を高め、避難するための知識、技能を身につけることができるようにするとともに、自助・共助・公助の力を育成する。
- 近隣施設との合同訓練、地域や専門家との連携により、地域全体で防災意識を高める。

## 2 概要

### (1) 緊急放送を伴わない地震避難

- ・当初は緊急地震速報を受信した後、緊急放送を校内に流す計画であった。しかしそれでは実態にそぐわないということで、地震の音を聞いた時点で、各自が避難行動をとるように計画を変更した。
- ・地震が収まったら周りの安全を確認した後、第1次避難場所へ移動した。



地震直後の様子



屋外への避難



第1次避難場所へ集合

### (2) ひらい保育園や町役場日良居庁舎と合同の避難訓練

- ・低学年は、町役場日良居庁舎の前を通り、職員と一緒に避難した。
- ・中・高学年はひらい保育園に立ち寄り、園児と一緒に第2次避難場所まで避難した。



低学年の避難の様子



園児との避難の様子



多くの地域の方が参加

### (3) 学校防災アドバイザーによる話

- ・学校防災アドバイザーを招き、防災教育の重要性や身を守るための具体について専門的見地から有益な話をしていただいた。

## 3 成果と今後の課題等

- 多くの児童が地震の音を聞き、身を守る行動をとることができていた。
- 地域の方も多く参加してくださり、地域の防災意識も高まった。
- 学校防災アドバイザーに参加していただくことにより、「第1次避難場所の安全性」や「リスク回避の重要性」など専門家の視点から課題を見つけていただくことができた。今後の安全教育に役立てていきたい。

取組名	防災学習に係わる避難所開設・運営体験		
特徴	小中一貫校のよさを生かし、地域と連携して「防災対応能力」を育成した。		
学校名	上関町立上関小学校	期日	令和7年10月2日（木曜日）

## 1 ねらい

- 安全教育の一環として、児童生徒等が地震等の災害に直面したとき、災害に対する正しい知識・技能をもとに、的確に状況を判断し、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できるよう「防災対応能力」を育成する。

## 2 概要

### (1) 地域と連携した防災学習や段ボールベット制作体験

- ・講師として上関町役場総務課の方をお招きして、上関町の防災計画について学んだり、段ボールベットの制作体験をした

りした。上関中学校全校生徒、上関小学校5・6年児童、学校運営協議会委員、保護者、地域の方が参加した。



中学生による防災計画の話聞く様子



段ボールベットを組み立てる様子



ベッドの寝心地を比べ合う様子

### (2) 参加した児童生徒の感想

- ・上関町の避難場所や避難所は31か所あり、すぐに避難できることが分かった。
- ・年代を超えて協力することが大事で、若い自分たちはテントを立てたり、荷物を運んだり積極的に動きたい。
- ・段ボールベットとハンモックベッドにそれぞれ横になってみたら、思ったよりも寝心地がよく、災害時でもよく眠れそうだ。
- ・段ボールベットの部品を正しい切り込みのところにるのがとても大変だった。
- ・テントは広げるのがとても早かったので、便利だと思った。家族で協力して作りたい。

## 3 成果と今後の課題等

児童生徒だけでなく、関係機関や保護者、地域と連携して体験学習ができ、子どもだけでなく大人の学び場にもなった。

実際に災害が起きたとき、自分で判断して行動する難しさを実感するよい機会となった。これからも地域と連携した防災体験学習の機会をつくることで、児童生徒の「防災対応能力」を育成していきたい。

取組名	安心・安全な学校づくり		
特徴	教職員研修と児童主体の取組の推進		
学校名	田布施町立東田布施小学校	期日	令和7年7月 9日（水曜日） 令和7年8月23日（土曜日）

## 1 ねらい

- 不審者に対峙した場合の避難訓練を通して、防犯意識の向上を図るとともに、不審者への対応、児童の避難誘導、警察への連絡、不審者回避体験等、緊急事態発生時の対応方法を身に付けることができるようにする。
- 児童参加型の熟議の開催を通して、児童が考案したチャレンジ目標の達成に向けた具体的な方策を協議し、自分たちにできることを考える。

## 2 概要

### (1) 不審者対応避難訓練

- ・ 令和7年7月9日（水曜日）に、警察の協力を得て、全校で実施。
- ・ 不審者に対峙した場合の対応の在り方についてシミュレーションするなど、教職員と児童に具体的な指導・助言をいただいた。



【不審者対応シミュレーション】



【さすまたの使用訓練】



【警察の方から受指導】

### (2) 児童参加型の熟議を通した「右側歩行」運動

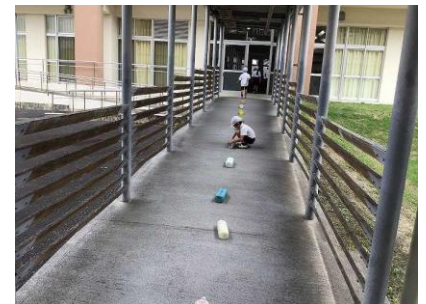
- ・ 令和7年8月23日（土曜日）、児童参加型の熟議を開催。児童が考案したチャレンジ目標の達成に向け、具体的な方策を協議。
- ・ 望ましい廊下歩行をめざすため、色水ペットボトルによる中央分離帯を置く試みを実施。



【児童参加型の熟議～中高生も参加】



【右側歩行が定着！】



【ペットボトルの向きを自ら正す様子も】

## 3 成果と今後の課題等

- 不審者侵入回避初期対応訓練では、教職員を中心に、防犯に対する意識をさらに高めることができた。不審者侵入時における教職員の対応や、さすまたを使った不審者回避方法を児童に伝えることにより、児童に安心感を与えることにつながったようである。今回は玄関からの侵入を想定して行ったが、他の場所からの侵入も想定し実施することも考えたい。
- チャレンジ目標の達成に向け、児童自ら対策を講じたことが奏功し、一定の場所では右側歩行が定着した。中央分離帯がない場合でも右側歩行をする習慣化が今後の課題である。

取組名	地域と連携した通学路点検を安全マップ作りに生かす		
特徴	毎朝登校に同行して下さる見守り隊と共に通学路の危険箇所を点検した。		
学校名	周南市立湯野小学校	期日	令和6年12月11日（水曜日） 令和6年12月12日（木曜日）

### 1 ねらい

- 通学路に潜む危険箇所の状況について、現地で見守り隊からの助言をいただきながら一緒に再確認を行う。
- 登校班ごとに通学路の危険箇所を写真でふり返りながら、児童自身が危険を回避する能力と態度を養う。

### 2 概要

#### (1) 見守り隊と合同の通学路点検

- ・ 令和6年12月11日（水曜日）に地域の見守り隊の方と児童・教員が通学路を歩き、点検を行った。危険箇所の状況と回避方法を確認したり、記録写真に撮ったりした。
- ・ 本校は多くの児童が学校敷地内にある児童クラブを利用しており、通常の下校時は保護者の車で帰るのだが、この日は全員が通学路を歩き、点検に参加した。



見守り隊の方々に「お願いします」



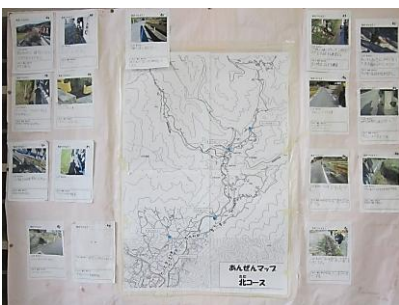
「どこが危険？」



「どうすれば安全に通れる？」

#### (2) 通学路安全マップの修正

- ・ 通学路点検の翌日、令和6年12月12日（木曜日）に、全校児童が登校班に分かれて実施。
- ・ 前日ピックアップした危険箇所の状況を、写真を見ながら再確認するとともに、安全に通行するための留意点を話し合った。
- ・ 修正した通学路安全マップは、児童昇降口に掲示し、児童が日々確かめることができるようにした。



完成した通学路安全マップ

本校の通学路は南北に長いため、2枚に分けて作成。地図の中に番号を記入し、危険箇所の写真と状況を地図の周りに貼っている。



### 3 成果と今後の課題等

- 通学路点検に参加して下さった見守り隊の方々は、毎朝登校に同行して下さっているのですが、危険な状況を熟知しておられ、教員より具体的なご助言をいただくことができた。
- 本校の校区は、歩道のない細い市道が多くあり、児童の生活道路となっている。KYT資料等の活用をさらに進め、児童一人ひとりが危険を予測できる力を伸ばしていきたい。

取組名	危機管理対応力を向上させるシミュレーション対応訓練		
特徴	子役をはじめ、対応する役割を事前に決め、実際に緊急事案が発生した場面を再現し、初動やその後の組織対応が的確にできるかを訓練する。		
学校名	下松市立下松小学校	期日	令和7年7月22日（火曜日）

## 1 ねらい

- 児童の安全を守るため、救急処置が適切かつ迅速に行えるようになることをめざす。
- 緊急時に対する救急対応（職員の動き）を確認し、いざというときに組織で対応できるようになることをめざす。

## 2 概要

### (1) 救急処置に関する理解を深める

- ・ 動画「ASUKAモデル（ダイジェスト版）」を視聴し、AEDを使うことの意義や重要性、使い方について理解を深め、救急処置に関する知識を身につけた。
- ・ 動画の中で救急処置をする際の役割についての説明があり、視聴したそれぞれが頭の中でシミュレーションをしながら、実際に当事者となったときにどのように動けばよいか理解を深めた。

### (2) 実技講習「傷病者の体位変換・担架による搬送」で対応力を高める

- ・ うつ伏せで倒れている傷病者を発見した際、楽な姿勢にするための体位変換が初期対応として必要であり、その方法について、赤十字職員を講師に招いて実技を行った。
- ・ 傷病者を担架に乗せて搬送する方法について、4人1組のチームを作って実際にどのように乗せて運ぶのかを行った。配慮すべきことがいくつかあり、搬送する際のポイントについて理解を図ることができた。



負傷者を担架に乗せる様子

### (3) シミュレーションによる対応訓練で組織としての対応力を高める

- ・ 給食中にエピペン®を持つ児童が熱性けいれんで倒れる場面、4時間目の外体育における熱中症で倒れる場面について、A班とB班に分かれて救急処置を行った。
- ・ 役割を事前に決め、講師である消防士・下松市教育委員会職員に立ち会ってもらい訓練後に対応の振り返りを行い、成果と課題について共有した。



傷病者に AED を取り付ける様



倒れた児童役への初期対応



シミュレーションを振り返る場面

## 3 成果と今後の課題

毎年この時期に行っている訓練であり、繰り返し経験することで対応力が確実に高まっていることを感じた。シミュレーションで役割を担う教員には、どんな状況で倒れるかは事前に知らされておらず、その場に応じた臨機応変な対応が求められたが、教室に備えられているアクションカードを参考にしながら、迅速に組織として対応することができた。

成果がある一方で、課題も実際にやってみると、指示役を誰が担うのか、記録はどこまでとる必要があるのかなど、細かい部分ではたくさん出された。振り返りで講師からの指導助言も得ながら課題を共有することで、組織としての対応力の向上につながった。

取組名	地域と連携した交通安全・災害安全の取組		
特徴	コミュニティ・スクールの良さを生かし、安全への意識を高めた。		
学校名	下松市立公集小学校	期日	(1) 通年活動（本年度新規事業） (2) 令和7年6月4日（水曜日）

1 ねらい（保護者の交通立哨と保育園との合同避難訓練）

- 保護者と学校が協働して登校の様子を見守ることで、児童並びに保護者の日頃からの交通の危機意識の向上を図る。
- 保育園との合同避難訓練を行うことで、実際に本校が避難場所になったときの対応について考え、避難に備えることができる。

2 概要

(1) 保護者の交通立哨

- ・PTA校外安全部による見守り体制の改善として、従来の輪番制から、防災安全マップを活用した主体的な見守り体制へと移行した。これにより、保護者が無理のない期間で見守り活動に参加できるようになり、危険箇所に応じた効果的な見守りが可能となった。活動後はフォームで気付きを収集し、交通安全上の課題を学校と共有することで、安全指導の充実を生かしている。

日時	立哨場所	立哨内容	気付き
2025/07/02 7:42:04	道沿の傍	自走バイクの通行	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:05	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:06	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:07	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:08	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:09	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:10	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:11	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:12	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:13	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:14	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:15	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:16	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:17	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:18	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:19	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。
2025/07/02 7:42:20	道沿の傍	一般に歩行者	歩行者が歩道から歩道を横断し、歩道に侵入する様子が見受けられた。

保護者からの気付き

(2) 愛隣幼児学園・保護者と連携した津波対応避難訓練

- ・令和7年6月4日（水曜日）に愛隣幼児学園と合同の避難訓練を実施。授業で地震の緊急放送を流し、グラウンドに避難した。その後、津波の避難を想定し、6年生が園児を連れて校舎に避難をした。



避難の様子



緊急放送後の様子



垂直避難をする様子

3 成果と今後の課題等

- 保護者の交通立哨の成果として、危険箇所に応じた効果的な見守り活動が実現し、保護者が主体的かつ無理なく参加できる体制が整うとともに、活動後の気付きの共有によって学校の安全指導の充実が図られた。課題としては、参加の平準化や気付きの活用方法の明確化、新規保護者への周知、季節や状況に応じた見守り内容の更新が求められる。
- 愛隣幼児学園・保護者と連携した津波対応避難訓練の成果として、地域一体となった避難体制の構築や児童のリーダー性の育成、実践的な避難動線の確認が進んだ。今後の課題としては、園児誘導時の具体的なマニュアル整備や役割分担の明確化、多様な条件での検証、継続的な訓練実施が必要である。



取組名	危機管理対応訓練		
特徴	教職員による緊急時シミュレーション		
学校名	下松市立花岡小学校	期日	令和7年7月23日（水曜日）

## 1 ねらい

- 緊急時の救急対応（職員の動き）を確認し、危機が発生した場で求められる行動を理解する。
- 児童の安全を守るため、エピペン®の使用や心肺蘇生・救急処置が適切かつ迅速に行えるようにする。

## 2 概要

### (1) 取組の流れ

- ・ 実践型のシミュレーション研修を計画し、下松消防署の指導者を迎えて専門的な指導のもとで訓練を実施した。
- ・ 児童のアレルギー対応、熱中症対応の2つの場面を想定したシミュレーションで、役割分担のもと訓練を実施した。
- ・ 教職員は2つのグループに分かれて訓練を行い、一方のグループがシミュレーションを実施している間、もう一方のグループは、訓練の進行や対応の適切さ等について、客観的な立場から観察を行った。訓練終了後には、観察者も含めた全員で振り返りの時間を設け、各グループの感想や気づき、改善点について意見交換を行った。
- ・ 受指導を生かし、今後の危機管理体制の強化に向けて具体的な対応策や改善策について共有を図った。



【シミュレーション】

### (2) 日程

- 10：30～10：40 全体会
- 10：40～11：10 シミュレーション
- 11：10～11：30 反省・振り返り
- 11：30～11：40 受指導



【振り返り】

## 3 成果と今後の課題等（教職員のアンケートより）

### (1) 成果

- アクションカードの手順を確認しながら行うことで、任された役割を確実に行うことができた。日頃から読み込んでおくと慌てなくてよいことが確認できた。
- シミュレーションを体験してみることで、具体的な動きを考えることができた。
- 訓練を通して、忘れていたことを確認したり新しい学びを得たりすることができた。教職員の危機管理意識を向上させていくためにも、この度のような研修を毎年行っていく必要がある。

### (2) 課題

- 情報収集、情報伝達のために、放送マニュアル（放送の仕方）があるとよかった。
- 後から駆けつけた人にも、現在の状況、どこまで対応しているのか分かるように、チェックリストがあるとよかった。
- 早期の救急車要請と適切な救急処置の実施を行っていくために、現場でまず、誰がリーダーになって指示を出すのか、共通理解が必要であった。
- アクションカードをよりシンプルにした方が分かりやすく使いやすい。
- 振り返りや情報共有したことを今後どのように具現化して対応にどう生かすか話し合う場の設定も必要であった。

取組名	地震対応 幼・小・地域合同避難訓練 下松市小中学校防災教育プログラム		
特徴	地域・関係機関等と連携した実践的活動を通して、災害発生時に自分の身を守りつつ、共助に貢献できるスキルを身につける。		
学校名	下松市立豊井小学校	期日	令和7年11月5日（水曜日）

### 1 ねらい

- 地震発生後の避難の際の注意点や避難所生活などについて、地域の方々と共に児童が学び、防災に関する個人のスキルを高めるとともに、地域の防災力の向上に貢献する意識を醸成する。

### 2 概要

#### 合同避難訓練

避難訓練 12:50～13:10（運動場）

※昼休みに地震が発生したことを想定

※放送設備が使えない状況として設定

- ・豊井小学校児童・地域の方々・江口幼稚園園児が運動場に避難
- ・避難場所への安全な移動や、児童や園児の誘導、集合時の安全確保等を確認



安全に避難したことを確認

防災学習 13:25～14:10（体育館）

- ・本校児童と地域の方が参加。下松市防災危機管理課の方がご指導くださった。
- ・避難の際の注意点や避難所生活などについて体験を通して学んだ。（下松市防災危機管理課の方々を指導者として迎え、実践を通しての学びの機会を得た。）



簡易ベッドやパーティション設営

### 3 成果と今後の課題等

大変多くの学びがあった。幼稚園と小学校の職員の連携もとれ、スムーズに避難できた。

防災学習や避難所設営については、防災危機管理課の方々が、具体物をたくさん用意して下さり、丁寧に指導して下さったおかげで、具体的・実践的に学べた。1人ひとりが十分体験しながら学び、大人も子どもも危険を避ける方法や避難所設営等についての知識を増やし、実行するスキルを伸ばすことができた。机の下で身を守る体勢やランドセルの活用法など新たな知識が得られた。

今後実際に設営の必要が出た際にも、貢献できる人数が増えると思われる。

取組名	命を守る力と防災力を育む中村小学校防災プログラム		
特徴	児童・教職員・地域が一体となり、防災体験を通して「自分ごと」として命を守る力を育む取組である。		
学校名	下松市立中村小学校	期日	令和7年9月30日（火曜日）

## 1 ねらい

- 児童が防災について学ぶとともに、大規模災害を想定した防災訓練や避難所生活等を含む総合的な体験学習を実施する。
- 児童が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

## 2 概要

### (1) 事前学習

4年生が中村公民館を訪問し、公民館における防災の取組について学習した。公民館には災害用マンホールトイレがあることが分かった。水洗トイレが使えない状況でも、衛生的かつ安心して利用できることに子どもたちは大変驚いていた。また、公民館には災害に備えて、非常食や飲料水、毛布、ランタンなどが常備されていることが分かった。



災害用  
井戸

災害用井戸  
マンホール

災害用  
トイレ

トイレ用  
マンホール

地下水をくみ上げ → 用を足し → 下水道に流す

災害用マンホールトイレの仕組み



公民館見学の様子

### (2) 講義～災害に備えよう（講師：下松市防災危機管理課職員）

- ・ 危ない場所を知る  
ハザードマップで中村小学校や校区は浸水被害にあう可能性があることを確認した。
- ・ 情報を集める  
天気予報を見る、市のホームページで川の状況を確認する、下松メールや下松市公式ラインにあらかじめ登録しておくなど、情報を集める手段を知った。
- ・ 避難方法を知る  
警戒レベルごとに自分がとるべき行動、家族がとるべき行動があることを知った。

### (3) 避難所設営体験

- ・ 非常食（アルファ化米）について知った。
- ・ グループに分かれてパーテーションと段ボールベッドを組み立てた。
- ・ 災害時に使用する「タワーライト」を体験した。
- ・ 災害用簡易トイレに実際に座り、利便性を実感した。



講義の様子



段ボールベッドの体験



簡易トイレの体験

## 3 成果と今後の課題等

- 自分の身は自分で守るという意識が芽生え、家庭で防災ルールを考える契機となった。
- 保護者や地域住民の参加は一部に限られており、より広範な地域連携を図る必要がある。

取組名	土砂災害を想定した避難訓練		
特徴	高台にある学校を利用した土砂災害を想定した垂直避難訓練		
学校名	光市立島田小学校	期日	令和7年6月4日（水曜日）

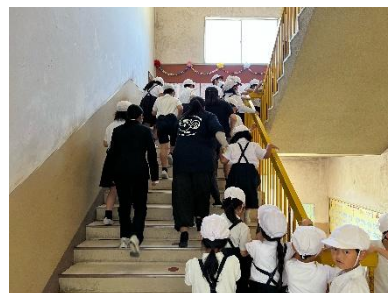
### 1 ねらい

- 災害に対する教職員の動きや連携について実地的に確かめ、有事に備える。
- 訓練を通して土砂災害が校内で発生、または校地付近で発生する危険がある時、全員が落ち着いて規律ある行動のもと安全な場所へ避難できる方法や態度を身に付ける。
- 緊急に保護者への引き渡しが必要になったときにスムーズに引き渡しができるよう、実地訓練を行う。

### 2 概要

#### ため池の決壊による土砂災害を想定した垂直避難訓練

- ・ため池が決壊し、校長室に土砂が流入することを想定
- ・校舎がそれなりに高い位置にあること、校舎が3階建てということから垂直避難の実施
- ・児童については、以下のことを注意
  - 【児童が日頃から当たり前にしておくこと】
  - 上靴をきちんと履く
  - 赤白帽子をすぐかぶれるように机の横などに常備する
  - 普段からハンカチを常備する
  - 【災害時の児童の態度等】
  - 放送を黙って聞く
  - 静かに整列する（望ましい集団行動が習慣化するよう日頃から指導）
  - すばやく行動する
  - 避難するときの態度は『お・は・し・も』
    - お…おさない      ○は…はしらない
    - し…しゃべらない      ○も…もどらない
  - 避難経路（東側階段から3階へ）が分かっている



### 3 成果と今後の課題等

- 島田小学校は裏山にあるため池が氾濫する恐れがあるため、土砂災害警戒区域に入っている。1階の児童は階段の内側を、2階の児童は階段の外側を上ることでスムーズに避難することができた。
- 児童についての課題は、土砂災害の避難訓練だったが、ハンカチで口を覆う児童がみられた。避難訓練の目的等を理解させるようにしていきたい。  
また、避難後の放送が聞こえにくかったため、3階教室の児童を前方に、下階から避難した児童を後方に入れるなどして、放送が聞き取りやすい状況にする必要があると感じた。
- 児童・教職員ともに実際に想定し、様々な危機状況を想定した訓練をしていく必要がある。管理職不在を想定した避難訓練や島田中学校校区の各校と連携した避難訓練・引き渡し訓練を実施するなど、さらに実践的な避難訓練を考えていきたい。

取組名	関係機関と連携した防災体験学習		
特徴	消防・警察が連携した実践的な救助訓練により、防災の意識を高めた。		
学校名	光市立上島田小学校	期日	令和7年10月29日（水曜日）

### 1 ねらい（避難訓練と防災体験学習）

- 生命及び身体の安全を考えて行動する態度と秩序正しく避難する集団行動をする力を養う。
- 消防・警察が連携した実践的な救助訓練等を実施し、地震や火災から身を守るために早期避難の重要性について認識を深め、防災意識の向上を図る。

### 2 概要

#### (1) 避難訓練

- ・ 令和7年10月29日（水曜日）に避難訓練と防災体験学習を上島田地区自主防災会の研修と併せて実施した。授業中に震度5強の地震発生による教員1名と児童6名の負傷を想定した。その後の校内での火災発生も想定し、通報訓練と二次避難場所へ避難を行った。
- ・ 負傷した教員は2階のベランダに、負傷した児童には教員が付き添い校舎の屋上に移動し救助を待った。

#### (2) 防災体験学習

- ・ 警察が学校に到着し、状況確認の後、消火班の教員と共に消火訓練を実施した。
- ・ 消防が到着し、2階ベランダと屋上にいる逃げ遅れた負傷者の救助活動を開始。2階ベランダにはしごをかけて救助したり、屋上にはしご車を用いて救助したりした。
- ・ 警察による警察車両と資器材の説明や消防による消防車両と資器材の説明を行った。
- ・ 山口県防災危機管理課による防災体験学習のまとめを行い、災害時の行動を確認した。



救助活動の様子



警察による説明



災害時の行動確認

### 3 成果と今後の課題等

- 全校児童が地域の自主防災会と共に防災について体験しながら学ぶ機会をもつことができ、防災意識を高める大切さや地域の方々に見守られていることを感じる事ができた。
- 児童は、屋上からはしご車で救助される様子を見て、逃げ遅れのないように避難行動をとることの大切さを実感することができた。
- 車両や道具を見ながら警察署や消防署の方々のお話を聞くことで、児童は、災害や犯罪者から身を守る消防士や警察官の工夫や訓練について知り、命を守る仕事の大変さを実感するとともに、自分の身を守る行動への意識の高まりがみられた。
- 山口県防災危機管理課職員による防災体験学習のまとめの講話は、わかりやすく低学年の児童も理解できた。
- 防災学習の一環として、防災体験学習の打ち合わせ内容を児童に知らせたり、児童の質問や意見の反映ができるようにしたりして、児童がより主体的に関わる場面を設けていきたい。

取組名	安心・安全な学校づくりをめざした訓練や研修の実施		
特徴	関係機関とのつながりを生かした研修や避難訓練の実施		
学校名	光市立光井小学校	期日	令和7年 5月28日(水曜日) 令和7年 6月 6日(金曜日) 令和7年 7月11日(金曜日) 令和7年11月18日(火曜日)

## 1 ねらい

- 水泳指導の際の事故発生緊急時に備えて、水泳指導の際の留意点やAEDの使い方について教職員が正しい知識及び技術を身につける。
- 緊急時(不審者侵入時や地震・火災発生時)の児童の安全を守るための対応の仕方を教職員が身につける。また、児童にも、自分の身を守るために行動する力を身につける。

## 2 概要

### (1) 水泳指導の際の安全管理に向けた研修

- ・令和7年5月28日に光地区消防組合消防本部より講師を招き、救命救急法講習会を実施した。教職員で4名程度の班を作り、AEDの使い方や心肺蘇生の方法について学んだ。
- ・令和7年6月6日に体育主任をリーダーとして、他県の事故発生事案をもとに、発達の段階や安全面に配慮した指導方法の工夫について研修した。



救命救急法講習会の様子

### (2) 不審者対応避難訓練や火災避難訓練の実施

- ・令和7年7月11日に、光警察署から指導者を招き、不審者対応避難訓練を実施した。本校では数年ぶりに実施したが、教職員が役割分担をすることで、不審者を校舎内に入れないように対応したり、不審者の教室侵入を防ぐために、児童自らが行動したりすることができた。
- ・令和7年11月18日に、光地区消防組合消防本部より講師を招き、地震・火災避難訓練を実施した。緊急時の際に安全に行動する力をつけるために、児童には実施日を知らせずに訓練を行った。全校が運動場に避難した後は消防署員から、火災時に身を守るための方法や消火器の使い方についてご指導いただいた。



不審者対応避難訓練の様子

## 3 成果と今後の課題等

今年度は、日時を事前に伝えない日時等を事前に告げない実践的な訓練を実施することができた。また、警察署や消防署などの関係機関と連携した研修や訓練を実施することで、専門的な視点からご指導をいただくことができた。

児童や保護者にとって安全・安心な学校をめざすためには、まずは、教職員の安全管理能力や危機意識、指導力が必要となる。今後も関係機関と連携しながら、定期的かつ機をとらえた研修を仕組んでいきたい。また、児童の危険予測・回避能力を育成するために、今年度の実践を生かし、訓練方法を工夫したり、危険予測学習(KYT)の手法を用いながら全校体制で指導したりしていきたい。

来年度は、保護者や地域と連携しながら通学路の危険箇所点検や防災教室などを行い、家庭、地域、学校が連携しながら児童の安全を見守る体制づくりをさらに推進していきたい。



地震・火災避難訓練の様子

取組名	家庭や地域、関係機関と連携した通学路安全マップの作成と通学路点検		
特徴	家庭や地域、関係機関と連携した通学路安全マップの作成や通学路点検を実施し、児童の安全に対する意識や対応力の向上を図った。		
学校名	光市立周防小学校	期日	令和7年5月28日（水曜日）

## 1 ねらい

- 登校班で、通学路の危険箇所や安全な場所について話し合い、安全マップを作成したり、通学路点検をしたりすることを通して、安全に対する意識や対応力の向上を図る。
- 交通指導ボランティアや駐在所員、保護者（アンケートの活用）と連携しながら、通学路安全マップ作成や通学路点検をすることを通して、地域ぐるみで児童の安全を見守る意識を高める。

## 2 概要

### (1) 通学路安全マップの作成

- ・各登校班で、通学路の危険箇所について見直したり、子ども110番の家を確認したりした。交通指導ボランティア、駐在所員の助言や通学路危険箇所保護者アンケートも踏まえ、今年度の通学路安全マップを作成した。



登校班での話し合いの様子



デジタルマップも併用しながら話し合う様子

### (2) 通学路安全点検

- ・教員、交通指導ボランティアと一緒に、登校班で通学路の安全を確認しながら下校。新たに気付いた危険箇所については、安全マップに追記し、共有した。



登校班での通学路点検の様子①



登校班での通学路点検の様子②

## 3 成果と今後の課題等

家庭や地域、駐在所員と連携しながら通学路の見直しをすることで、交通安全（交通量の多い場所、見通しの悪い場所）、防犯を含む生活安全（人通りの少ない場所）、災害安全（雨天時に浸水しやすい場所）等の様々な視点で、危険箇所を確認することができた。危険箇所について進んで気づきを伝える姿や日々安全に気を付けながら登下校する姿を交通指導ボランティアや駐在所員から価値づけていただいたことが、児童の安全に対する意識や意欲の高揚につながった。

今後は、毎月の遊具の安全点検等も児童と一緒にを行うことで、安全な遊具の使い方や安全な遊び方等についても視点を広げ、安全教育の充実を図りたい。

取組名	地域と連携した防災学習		
特徴	隣接する地域交流センターや地域の自主防災会という地域の支援により、防災を身近に感じることができた。		
学校名	山口市立佐山小学校	期日	令和7年9月 9日（火曜日） 令和7年9月12日（金曜日）

### 1 ねらい

- 第4学年社会科防災単元における「公助」と「共助」について、探究的な課題を設定し、当該単元で培う資質・能力を深める。

### 2 概要

#### (1) 地域交流センターでの防災学習

- ・ 令和7年9月12日（金曜日）に佐山地域交流センターに行き、センター職員に公助の取組について話を聞き、その後、地域交流センターの避難訓練に参加し、消火器体験をした。
- ・ 地域交流センターにある防災倉庫の中も見学し、簡易トイレ等の解説を受けた。



公助の取組についてのお話



防災倉庫の見学



消火器体験

#### (2) 鳩岡自主防災会による防災学習

- ・ 令和7年9月9日（火曜日）に、鳩岡自主防災会の方々に来校いただき、防災士による佐山地域の地形についてのお話、防災意識を高める紙芝居を聞いた。
- ・ 防災グッズも紹介していただき、自主防災会の取組が共助の取組であることを説明していただいた。



防災士のお話の様子



防災グッズの紹介



自主防災会の紙芝居

### 3 成果と今後の課題等

- 以前から協働できていた地域の自主防災会との防災学習に加え、隣接する地域交流センターにおける公助の取組を学ぶことができたことから、児童は防災学習を自分事として捉え、地域における防災意識を高めることができた。
- 佐山地域がハザードマップ等においても、比較的落ち着いた地域であることから、全県や全市にも視野を広げ、さらなる防災意識の発展を促す必要がある。

取組名	地震津波対応避難訓練・華浦ウォークラリー		
特徴	コミュニティ・スクールのよさを生かし、学校・地域・保護者が一体となって防災の意識を高めた。		
学校名	防府市立華浦小学校	期日	令和7年10月18日（土曜日）

## 1 ねらい

- 緊急地震速報や津波警報が発令されるなど、不測の事態が生じた際に、児童の安全を確保し、安全な場所に誘導・避難させることができるようになる。
- 誘導・避難した場所（桑山）において、協力して縦割り班で活動を行うことで、華浦地域の自然や歴史、伝統、地域のよさを味わう。加えて、高学年に関しては、下学年を意識し行動をとることができるようになる。

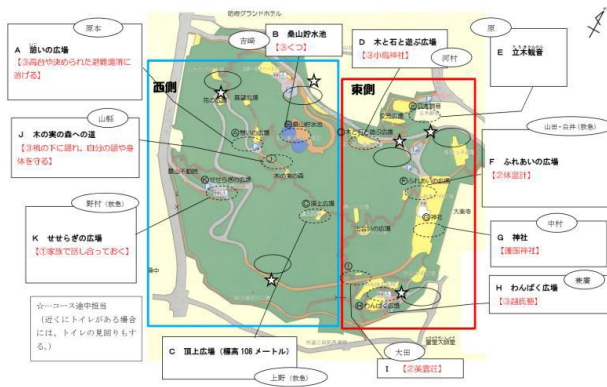
## 2 概要

### (1) 経路の検討

- ・ 桑山への距離及び道路の安全性を考慮の上、避難経路を設定した。工事により東門の出入りが不可となったため、南門からの避難に変更した。全校で安全に避難するため、保護者や地域の方の協力を得た。
- ・ ウォークラリーでの安全を確保するため、桑山公園内の危険箇所点検を行った。



(桑山までの避難経路)



(ウォークラリー地図)

### (2) シェイクアウト訓練

- ・ 地震発生後に教室で身を守る行動をとった（姿勢を低くする、体や頭を守る、揺れが収まるまで動かない）。
- ・ 放送の指示に従い、各クラス2列で「おはしも」を徹底して避難を開始した。



(シェイクアウト訓練)



(避難行動①)



(避難行動②)

### (3) 桑山への避難

- ・ 津波警報発令に合わせて、あらかじめ示しておいた避難経路で低学年・高学年に分かれて避難した。交通量の多い危険な道路や横断歩道には地域の方に立っていただき、交通整備や避難誘導をしていただいた。
- ・ 桑山（ふれあい広場）に到着後、振り返りを行った。また、避難の完了までの時間を計測するなどし、児童の意識を高めた。



(避難の様子①)



(避難の様子②)



(避難の様子③)

#### (4) 華浦ウォークラリー

- 交通のルール・公共施設を使用するマナーを確認し、縦割り班ごとに桑山を散策し、異学年交流を図った。
- 各班にボランティアの保護者がついたことで、6年生が安心してリーダーシップを発揮する様子が見られた。



(ウォークラリーの様子①)



(ウォークラリーの様子②)



(ウォークラリーの様子③)

### 3 成果と今後の課題等

児童は真剣に避難していた。見守り隊やPTAのボランティアが数多く参加してくださったおかげで、危険箇所も安全に避難することができた。避難中は、低学年と高学年の合流ポイントや交差点で混雑したが、児童は交通整理の指示に従って落ち着いて順番を待つことができた。

取組名	外部機関や地域と連携した安全教育・安全点検の実施		
特徴	様々な外部機関や地域と連携した活動を通して、安全意識を高めた。		
学校名	防府市立佐波小学校	期日	令和7年6月12日（木曜日） 令和7年8月21日（木曜日） 令和7年9月9日（火曜日）

## 1 ねらい

- 具体的な場面を想定した訓練を通して、安全に関する児童の資質能力の向上を図る。
- 講師を招聘し、教職員の安全管理の意識を高める。
- 校区内の危険箇所を確認し、危険箇所の改善を図る。

## 2 概要

### (1) 4年生自転車教室

- ・公道で自転車に乗ることができる4年生を対象に自転車教室を開催した。自転車の点検は、地域の自転車販売店の店員さんに行っていただいた。
- ・警察署員の指導により、自転車の実地乗車訓練を行った。佐波地域交通安全協会の皆さんがサポートに入り、自転車の運転技能の向上を図った。



警察署員の講話



佐波地域交通安全協会のサポート

### (2) 校区内の危険箇所点検

- ・PTA地区委員が担当地区の危険箇所を確認し、特に、改善が必要な箇所は、市役所担当課と警察署と共に、現場で改善点を協議した。

### (3) 不審者対応避難訓練

- ・スクールガードリーダーを講師に招聘した。不審者役が校舎に侵入して、教職員の対応訓練を行った。チームとして、どのように対応することが大切なのかを確認することができた。
- ・体育館に全校児童が集合し、スクールガードリーダーの講演を聞いた。「いか・の・お・す・し」の合い言葉を唱和し、下校時や放課後の大人がいない時間の過ごし方を確認した。



スクールガードリーダーの講演



不審者役にさすまたの使用訓練

## 3 成果と今後の課題等

- 安全についての準備や環境は、数多くの人で確認していくことが肝要である。外部機関やPTA・地域と連携することで、教職員だけでは日頃気づかない点を指摘していただくことがあり、安全への意識が高まった。
- 想定できる危機対応研修を今後も行っていきたい。

取組名	集団下校を活用した通学路の安全確認		
特徴	地域（保護者、防災士、見守り隊）と学校や行政とが連携し、主に通学路の安全の確保や防災の意識を高めるための取組。		
学校名	防府市立松崎小学校	期日	① 5月14日（水曜日）対面式 ② 6月4日（水曜日）防災 ③ 10月8日（水曜日） ④ 3月4日（水曜日）予定

## 1 ねらい

- 児童の集団下校に合わせ、保護者と地域の見守り隊、地域防災士と教員とが一緒に下校するなどの取組を通して、交通と防災の観点から通学路の危険箇所の点検・確認を行う。
- 地域や保護者の通学路に関する安全点検についての意見を学校と行政が共有することで、市と連携して児童の安全を確保できる取組を推進する。

## 2 概要

### (1) 集団下校

- ・ 第一回の集団下校では、見守り隊の方との対面式を行った。地域の安全を守ってくださる方の顔と名前を覚える機会となっただけでなく、感謝の気持ちをもつよう指導した。
- ・ 第二回の集団下校では、地域の防災士さんに依頼し、防災の観点から通学路における危険箇所等を教えていただき、安全な対処法等について指導を受けた。
- ・ 毎回、PTAの環境部の部長を中心に保護者に下校時の見守りの協力を依頼している。毎回20名以上の保護者に同伴してもらい、危険箇所等について情報提供をいただいている。



【見守り隊との対面式】



【防災士の話】



【保護者の見守り】

### (2) 安全点検

- ・ 集団下校後、PTA環境部が参加者にアンケートを行い、下校時の気付きや危険箇所についての情報を集約した。
- ・ 学校の交通安全担当が、アンケート結果を踏まえて市に提出する通学路危険箇所の資料の作成を行った。
- ・ 市との安全点検後、市の対応策等について交通安全担当が詳細を保護者や関係者に伝達した。

警察・道路課との通学路危険箇所点検まとめ

No.1  
 ・警察から、地域から点検されているため、警察用の視界を確保してほしいとの要望あり。学校と地域・警察の連携があるとのこと。現在互いの意見を聞き、青の点灯機能のカメラをつけている様子であるとのこと。  
 ・一時停止の標識の設置を希望するが、撤去してほしいとのことだった。  
 ・ストロークン交差点にするという案もあったが、児童が交差点の真ん中で取り残される可能性が高く、危険であるとのことだった。

No.2  
 ・自転車の危険箇所の整備を要望していただけるとのことだった。  
 ・奥に歩道が整備された大きい道路があるため、通学路を見直すことを検討すべきである。

No.3  
 ・スターゲージなどの歩道整備を要望していただけることになった。  
 ・児童が利用する道路であることを地域住民に発信することも必要。

No.4  
 ・歩道は200m以内がほしいというが、周りの道路も200m以内がほしいとのことである。  
 ・鉄線からの道が下り坂になっているため、スロープがほしいとのこと。  
 ・歩道が歩道を確保してほしいとのこと。  
 ・利用する人が地元の人に限られるため、地元の人が注意喚起をする必要がある。

【点検のまとめ】

## 3 成果と今後の課題等

- 学校だけでなく、地域（見守り隊や防災士）や保護者等関係者全員で、通学路について見直すよい機会となった。
- 防災士の参加により、気づきにくい通学路に潜む危険性について児童が学ぶことができた。また、災害等の危険が迫った際の安全な対処法についても教わることもできた。
- △ 危険箇所等については、大人だけではなく、児童からの意見も取り入れるとより安全性が向上した意見書の作成につながる。また、市との通学路の安全点検の際には、保護者や地域の方なども参加すると、様々な意見が反映された取組になる。

取組名	4年生「安全マップづくり」		
特徴	地域の人を交えて作成した「安全マップ」を1年生に紹介する		
学校名	防府市立中関小学校	期日	令和7年 5月 2日（金曜日） 令和7年 5月 28日（水曜日）

他

## 1 ねらい

校区の中の身近な危険箇所調べをとおして、安全のための施設や設備を見つけ、安心・安全な生活の仕方について安全マップにまとめながら考えることができる。

## 2 概要

### (1) 校区の危険箇所調査

4年生が総合的な学習の時間に、中関地域みまわり隊の皆様、母親クラブの皆様、交通安全協会中関分会の皆様力を借り、校区の中で身近な危険箇所を調べたり、見回り活動や、危険な箇所、安全のための施設や設備についてのインタビューをしたりした。【写真：地図上で危険箇所の確認】



### (2) 校外における危険箇所フィールド調査

みまわり隊の方々等、地域の皆様と実際に校区の中を歩き、グループで話し合いながら安全マップづくりのために危険箇所の写真を撮るなどの活動を行った。【写真：地域の方々と実態調査】



### (3) 1年生に発表

完成した「安全マップ」をもとに、1年生に向けて、校区の危険箇所をグループごとに発表した。1年生は、自分の通学路に関心をもって聞いていた。本校の登校は「登校班」で行っている。マップで確認した危険箇所を登校中に話題にしなが安全への意識を高めた。

【写真：1年生に発表】



## 3 成果と今後の課題等

- 地域の方々連携し、地域の危険箇所を1年生の視点で調査・集約・発表することで、4年生にとっても地域に潜む危険に改めて意識を向けることができる等、多くの学びがあった。
- 1年生は、4年生の発表を聞いて、登下校だけでなく、普段の地域での生活においても安全に気を付ける意識を高める機会となった。
- 平常時の地域を知ることをもとに、風水害や不審者出没による緊急の下校時等防災や安全の視点でも多面的に地域を見直すことで、さらなる安心・安全に努めたい。

取組名	児童・保護者・教職員で協働した安全点検の実施		
特徴	保護者や児童の視点からの安全点検・教職員のローテーションによる安全点検の実施		
学校名	宇部市立恩田小学校	期日	令和7年度 1・2・3学期

### 1 ねらい（保護者や児童の視点からの安全点検・教職員のローテーションによる安全点検の実施）

- 教職員とは違う視点から校内の安全について点検し、新たな危険箇所などの発見につなげる。
- 学校と家庭で協働した安心・安全な学校づくりに取り組むことで、安全な生活についての意識の向上を図る。
- 教職員の定期安全点検（月1回）では、共用の場所をローテーションで点検することで、点検の形骸化を防ぐ。

### 2 概要

#### (1) 保健委員会の児童による安全点検

- ・学期に1度実施
- ・廊下、階段、トイレにおいて点検項目に沿って児童の視点で点検を行う。
- ・タブレット端末等で記録を撮影し、保健委員会で報告する。
- ・点検項目で、異常が見つかった場合には、保健委員会担当より教頭へ報告し、必要な補修を行う。



【安全点検の様子】



【安全点検の様子】



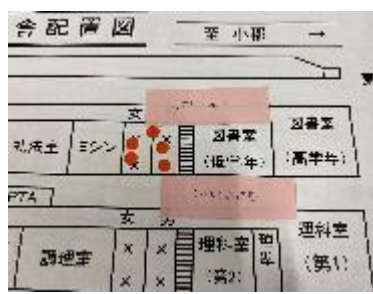
【点検状況の報告】

#### (2) 保護者による安全点検

- ・参観日に合わせて実施
- ・来校した保護者が、掲示された校舎配置図の気になる箇所にシールを貼り、書き込みをする。
- ・保護者の気付きをとりまとめ、補修や今後の安全対策に向けて安心・安全部で対応する。



【校舎配置図（掲示用）】



【保護者の書き込み】



【保護者が書き込む様子】

#### (3) 教職員のローテーションによる安全点検

- ・教職員による定期の安全点検（月1回）では、共用部分（外庭・中庭・校舎周り・グラウンド）をローテーションで点検する。

### 3 成果と今後の課題等

児童・保護者・教職員の三者の立場から安全点検を行うことで、気づきの幅が広がり多角的な視点からの点検となり、安全意識の共有と向上が図られた。また、児童については、自分たちの学校の安全点検に参加することで、主体的な安全意識が育つと考える。課題としては、保護者の参加率がまだ低く、より一層意識を高める啓発活動が必要である。

取組名	二次避難までを想定した避難訓練と引き渡し訓練		
特徴	地震後に津波や高潮に襲われる可能性を考えた避難訓練と地震後の下校時の安全確保を意識した引き渡し訓練		
学校名	山陽小野田市立須恵小学校	期日	令和7年10月22日（水曜日）

## 1 ねらい

- 地震等突発的な自然災害が発生した場合に教職員に求められる冷静な状況判断と児童への指示について事前に共通理解し、適切に対処できるようにする。
- 地震の後の津波や高潮を想定し、運動場に避難後、教職員の指示・誘導に従い、安全かつ速やかに小野田工業高校第2グラウンドに二次避難できるようにする。
- 地震後に児童だけでの下校が難しくなる状況を想定し、保護者・地域との連携を取りながら、児童引き渡しの手順を確認する。

## 2 概要

### (1) 教職員の情報共有

- ・職員会議で提案。
- ・シェイクアウト訓練を事前に行うことを確認。
- ・各学年で、校内の避難経路を確認。管理職と生徒指導主任で、校外の経路を確認。

### (2) 地域との連携

- ・小野田工業高校に、二次避難場所となるグラウンドの提供を依頼。
- ・地域に住まわれている防災士(学校運営協議会委員)に訓練への参加を依頼。

### (3) 10月22日(水曜日)の避難訓練当日

- ・訓練放送を流し、シェイクアウト訓練を行った。
- ・地震によって放送機器が使えない状況を想定し、ハンドマイクで避難開始を伝える。
- ・一次避難として、グラウンドに全児童が避難。
- ・津波(高潮)による被害を想定し、二次避難を開始。
- ・二次避難場所への避難。(6年生と1年生は離れないように避難)
- ・二次避難完了後、防災士と学校安全サポーターより講話。



シェイクアウト訓練



防災士の見守りで二次避難



防災士の方の講話

### (4) 10月22日(水曜日)の引き渡し訓練

- ・訓練メールを保護者へ送信。
- ・各教室で登録票を確認後、児童の引き渡し。
- ・保護者等の都合により迎えのなかった児童の一斉下校。

### 3 成果と今後の課題等

- 訓練の実施にあたって、目的や避難経路等について児童への事前指導ができたことで、児童は落ち着いて避難訓練に取り組むことができた。
- 避難経路や集合場所など、教職員での情報共有がされており、混乱することなく避難訓練を実施できた。
- 引き渡し訓練の流れや留意点について事前の保護者への連絡を徹底したことで、引き渡し訓練もスムーズに終わることができた。
- 日常の教職員や児童の安全意識をさらに高めることができるように、実際に災害が起きたことを想定したより実践的な避難訓練にできるよう、訓練内容について工夫改善する必要があると感じた。

取組名	地域で行う防火学校（火災予防・安全教育）		
特徴	コミュニティスクールのよさを生かし、防火や安全の意識を高めた		
学校名	下関市立向山小学校	期日	令和7年6月14日（土曜日）

## 1 ねらい

- 「向洋中学校区みらい架け橋ネット」が主体となり、学校・地域・関係機関が連携し、地域の子供や大人が一堂に会して、火災が起こった時の対応や命を守る方法について学ぶことで、地域全体の安全意識を高める。
- 消火訓練や煙体験、救命法等の具体的な活動を通して、児童生徒が火災等の緊急事態に遭遇した時に、正しい知識をもとに状況を判断し、自ら安全に行動するとともに、人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

## 2 概要

小・中学生、大人と一緒にいるグループを編成し、班ごとに下記の4つの体験ブースを巡り、活動を行った。下関中央消防署の消防士が各ブースでの指導を行ったため、正しい知識の習得と具体的な体験ができた。

### (1) 消火訓練

- ・ピンの外し方、ホースの持ち方等について指導を受けた後一人一人が実際に水消火器を持ち、噴射の体験を行った。噴射に必要なすべての作業を実際に行うことで、正しい使い方について学ぶことができた。



水消火器で消火訓練

### (2) 煙体験

- ・人体に安全な煙発生装置を使い、煙の中の移動の仕方を体験した。低い姿勢を保ったり、頭から大きなビニール袋をかぶったりすることで、できるだけ煙を吸わない方法を学ぶことができた。



煙の中の移動体験

### (3) ロープ結索

- ・外れにくい結び方や、いろいろな場面で有効なロープの結び方について、説明を受けながら実際に結ぶことで、具体的な方法を学ぶことができた。



便利で有効ロープ結索

### (4) 救急予防

- ・消防士だから分かる救急現場の実際について、具体的に話してもらうことで、日常に潜んでいる危険や命の尊さについて学ぶことができた。
- ・熱中症、水難事故等の予防について具体的な対策を学ぶとともに、意識がない人を発見した時の対処法、AEDの使い方等についても実践しながら学ぶことができた。



自分も人も守る救命法

## 3 成果と今後の課題等

- 火災現場や救急現場をよく知っている消防士の方々にご協力をいただいたことで、より実践的な学びができた。
- 地域の子供や大人と一緒に学習する機会を設けたことで地域としての防火や安全に対する意識が高まったと思われる。
- 休日であったため、希望者のみの参加であったが、多くの児童生徒が参加した。今後も地域で取り組む安全教育の実践ができるとうよい。

取組名	安全管理充実のための取組		
特徴	教職員・児童の安全管理の意識を高めるために、当事者意識をもつ取組を行った。		
学校名	下関市立王司小学校	期日	令和7年 7月22日(火曜日) 令和7年10月以降

## 1 ねらい

- 水泳学習を始める前に毎年AED講習会を行って。AEDの使い方だけでなく、児童の安全を守るために教職員が迅速かつ適切に対応できる力を身に付ける。
- 児童とともに安全点検を行う。校舎内外の潜在する危険箇所を調査点検し、児童が常に安全な状態で学習ができるように学校施設の安全を保持し、事故の防止に努める。児童とともに行うことで、児童自身も安全に対する意識を高めていく。

## 2 概要

### (1) AED講習会

- ・ 令和7年7月22日(火曜日)に、下関市東消防署の方を3人お招きして、AED講習会を実施した。本年度は水泳学習が2学期に実施されるので、夏季休業に行ったが、毎年、4月初頭に行っている。



東消防署の方からの説



重要なポイントの説明



AEDの使い方の実践

### (2) 児童とともに安全点検

- ・ 令和7年10月以降児童とともに安全点検を行うようにしている。



安全点検の確



児童中心にチェッ



結果を学級で共

## 3 成果と今後の課題等

- AED講習会は毎年行っているが、実際に実施することで、再確認したり、連携することの大切さを学んだりして教職員の意識を高めることができた。また、今後の取組として3学期に不審者対応訓練を計画している。それに伴い、教職員に消火器や刺股等の認知テスト、学校の許可書がない人への声かけ研修を実施する予定である。
- 児童とともに安全点検では、児童にも安全に対する意識を高める活動になった。この取組を日常の一つとして児童への安全意識を定着させたい。

取組名	夏休み防災デイキャンプ		
特徴	学校運営協議会主催のもと、学校・保護者・地域が一体となって防災教育に取り組んだ		
学校名	下関市立川中西小学校	期日	令和7年7月23日（水曜日）

## 1 ねらい

- いざという時のために、子ども達の防災意識を高める。
- 地域の中で、子ども達に自助・共助の大切さを学ばせる。

## 2 概要

### (1) 計画

- ・学校運営協議会の熟議において、プログラムのアイデアを出し合い、実現可能かどうかを検討した。
- ・子ども達だけでなく、運営する側も楽しみながら取り組む。
- ・強制ではなく、有志のメンバーが力を出し合って実施する。
- ・児童の募集や保護者への協力依頼は「Googleフォーム」で行った。

### (2) プログラム①着衣水泳

- ・地元消防署から水難救助隊や消防署員を招き、着衣水泳を実施した。



消防署員による  
指導の様子  
保護者も教員  
も共に見守りに  
参加した



救助されるまでに  
取るべき行動につ  
いて学ぶ児童

### (3) プログラム②昼食は非常食体験

- ・婦人会や垢田中学校生徒の協力の下、ビニール袋に米を入れて湯煎で炊飯し、レトルトカレーをかけて食べた。



米の準備方法  
を婦人会や中  
学生に教わりな  
がら、児童も体  
験した。



昼食は、ビニー  
ルで炊いた米  
で作ったカレー  
を食べる。材料  
費は徴収した。

### (4) プログラム③応急手当・心配蘇生・段ボールトイレづくりワークショップ

- ・地域の有識者や消防隊員がブースを設け、児童は縦割り班で順に体験しながら防災知識を学んだ。



地域の消防署員から応急手当を学ぶ



はじめての心肺蘇生に挑戦



作った段ボールトイレはお土産に

### 3 成果と今後の課題等

- 児童にとって夏休みの良い思い出となると同時に、防災意識を高め災害時の行動を学ぶ機会となった。
- イベントを通じて学校・地域・保護者が連携して取り組むことで、相互の距離がより近づいた。さらに、子供たちを通じて学校の取組が発信され、学校教育への関心を高める効果があった。
- 今後は、より多くの保護者に参加を促す啓発を進めたい。地域の防災訓練と合同で計画するなど、地域全体の防災力向上につながる取組をめざす。

取組名	「椿東小学校区危険箇所MAP」の作成		
特徴	子どもたちと地域の視点を生かした「椿東小学校 危険箇所MAP」を作成することによって、子どもたちの登下校等の安全を守る活動をより実効的なものになっている。		
学校名	萩市立椿東小学校	期日	令和7年7月28日（月曜日）

### 1 ねらい

- 「椿東小学校区 危険箇所MAP」を作成し、周知することにより、自分たちの安全・安心な登下校等に対する意識を高めることができる。

#### 【児童】

- 「椿東小学校区 危険箇所MAP」を作成し、周知することにより、子どもたちの安全を学校・地域総がかりで守っていくという意識を高めることができる。

#### 【教職員・地域】

### 2 概要

- (1) これまで校区内の危険箇所MAPはあったが、かなり前に作成されたものであったため、実効的なものとはいえなかった。
- (2) そこで、生徒指導主任が中心となり、地区児童会などの機会を捉えて、校区内の危険箇所について最新の情報を把握・整理していった。
- (3) 不審者に遭遇した時の対処法や自転車に乗るときのきまりについても掲載した。
- (4) 生徒指導主任が中心となり、最新の情報を反映した「椿東小学校区危険箇所MAP」の作成を行った。



作成した「椿東小学校 危険箇所MAP」

### 3 成果と今後の課題等

- 「椿東小学校区 危険箇所MAP」を作成したことにより、児童・教職員・地域の3者による子どもたちの安全な登下校等についての意識は確実に高まってきている。
- 今後は、作成した「椿東小学校区 危険箇所MAP」を学校運営協議会やPTA総会などの機会を生かしてさらに広く周知することにより、学校・地域総がかりで子どもたちの安全を守る意識をより高めていきたい。
- 最新の情報を反映した「椿東小学校区 危険箇所MAP」の更新時期を設定し、常にアップデートし続けることにより、実効性が継続できるものにしていきたい。

取組名	地震・津波対応避難訓練と防災学習		
特徴	萩市防災危機管理課との連携による避難訓練と防災学習		
学校名	萩市立越ヶ浜小学校	期日	令和7年7月4日（金曜日）

## 1 ねらい

- 非常災害時に際して、自ら判断し、迅速・安全に行動できるようにする。
- 地震・津波や避難に関する意識の向上を図り、自他の人命尊重の大切さを理解する。
- 非常災害時に際して、臨機応変に対応し、児童の安全を確保することができる。

## 2 概要

### (1) 避難訓練の内容

#### ①想定

緊急地震速報後、実際に地震が発生。その後、津波警報が発令される。  
 （一次避難）揺れがおさまって運動場に避難する。  
 （二次避難）津波警報が発令され、屋上手前のスペースに避難する。

#### ②訓練

- ・ 緊急地震速報が出る。教室にいる児童は机の下にもぐる。運動場や体育館にいる児童は落下物を避け中央付近に集まる。
- ・ 揺れがおさまり、一次避難場所である運動場に避難をする。
- ・ 津波警報が発令される。二次避難をするために、教職員が避難経路及び避難場所の安全を確認する。
- ・ 二次避難場所である校舎屋上手前のスペースに避難する。
- ・ すべての避難が完了する。

### (2) 萩市危機管理課による防災学習

- ・ 地震や津波が起きる仕組みについて
- ・ 萩市津波・高潮ハザードマップについて
- ・ 地震や津波の対応の仕方について



緊急地震速報後、机にもぐる



二次避難場所に移動する



萩市危機管理課による防災学習

## 3 成果と今後の課題等

- 萩市防災危機管理課と連携したことにより、児童が真剣に避難訓練に取り組む姿が見られたとともに、防災学習において地震や津波に対する意識の向上を図ることができた。また、事前打ち合わせの際に、学校だけでなく地域も含めて最適な避難場所を検討することができ教職員の研修にも繋がった。
- 今回は小学校のみの避難訓練であったが、隣接している中学校とも連携した訓練も検討していきたい。
- 今回のような大きな訓練だけでなく、簡単にできるシェイクアウト訓練を取り入れるなど非常災害時に対して安全な行動がとれるように習慣づけていきたい。

取組名	着衣泳教室		
特徴	水難事故に遭った際に落ち着いて行動ができるように、体験を通して知識を深めた。		
学校名	萩市立椿西小学校	期日	令和7年7月17日（木曜日）

## 1 ねらい

- 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めることができる。
- 5・6年生を対象に、着衣泳指導者から実技指導を受けることで水難事故に遭った際にどのように行動したらよいかについて知り、体験することで知識を深めることができるようにする。

## 2 概要

### (1) 着衣泳教室

- ・ 令和7年7月17日（木曜日）に、山口ラッコ隊（萩市消防本部）の方々の協力を得て行った。長袖、長ズボン、靴を水着の上から着用し水の中での動きづらさについて体験した。水難事故に遭った際に大切なことは「浮いて待つ」であるとお話しされ、ペットボトルを使って水面に浮く訓練を行った。浮く姿勢を保つことは思ったより難しく、児童は苦勞していたが最後には多くの児童が長時間水面に浮いて待つことができるようになった。



ラッコ隊の説明を聞く



ラッコ隊の方と実演



友達とチャレンジ



落ち着いて浮いて待つ

### (2) 事後指導

- ・ 1学期終業式後に生徒指導担当から、各クラスの学級活動で水の事故について話をした。海や川に遊びに行くときは、大人と一緒に行くこと、おぼれている人を見つけた時は助けには行かず、大人を呼びに行くこと等を指導した。

## 3 成果と今後の課題等

- 事前に水難事故の危険性や恐ろしさについて学んでいたこともあり、児童は自分事として捉え、真剣に活動に取り組むことができた。
- 着衣泳教室で学んだことを、下学年の児童に伝え、校内全体で自分の命を守ることの大切さについて考えられるように工夫していきたい。

取組名	関係機関と連携した避難訓練		
特徴	保小中との連携による引き渡し訓練や日時を事前に告げない実践的な火災対応避難訓練を実施することで、児童・保護者・教職員の災害意識を高めた。		
学校名	萩市立育英小学校	期日	令和7年 7月2日（水曜日） 令和7年11月5日（水曜日）

## 1 ねらい

- 大規模な自然災害（地震・津波）の発生等、非常事態発生時に備え、児童を安全かつ確実に保護者や引き取り者に渡すことができるようにする。
- 児童の安全に対する意識を高めるとともに、火災発生時の避難の仕方を身に付けさせる。火災発生時の教職員の役割分担を明確にするとともに、児童を安全に避難させることができるようにする。

## 2 概要

### (1) 須佐保育園・須佐中学校との合同避難訓練

- ・ 令和7年7月2日（水曜日）に須佐保育園・須佐中学校との合同避難訓練（引き渡し訓練）を実施した。まず、南海トラフ地震が発生し、震度5弱の揺れに襲われた想定で避難をし、その後、津波の心配はないが、下校時に余震による児童への被害が予想されるため、保護者へ緊急メールを発信し、引き渡しを行った。
- ・ 今回の訓練では事前に保育園、小学校、中学校で打ち合わせを行い、実施時間を10分ずらすことで、保護者への引き渡しをスムーズに行うことができた。

### (2) 日時を事前に告げない実践的な火災対応避難訓練

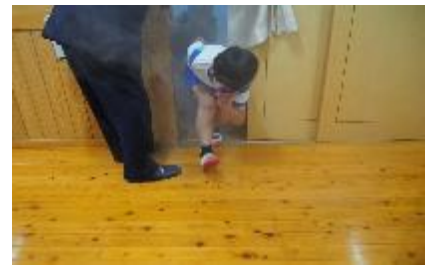
- ・ 実施日までに事前指導を行い、児童には日時を告げない避難訓練を行った。
- ・ 萩市消防署職員が火元を決め煙を発生させ非常ベルを鳴らした。第1発見者の職員が大声で「火事だ」と叫び周囲に知らせた。放送や教員の指示により児童誘導等の避難訓練へとつなげた。
- ・ 避難訓練終了後は、警察官、子ども見守り隊、スクールガードリーダー、少年安全サポーターから児童に向けての講評をいただいた。
- ・ 煙体験後、児童は各教室で避難訓練の振り返りを行い、管理職は受指導をいただいた。



消防署職員による講評



安全・安心サポーターによる講評



会議室における煙体

## 3 成果と今後の課題等

保育園・小学校・中学校による合同避難訓練（引き渡し訓練）では、保護者にとってきょうだい関係がある場合、どの学校（園）から迎えに行くかよいかを考える良い機会となった。本校においては、昨年度の反省を踏まえ駐車場を運動場に設置することで保護者が迎えに来た際に、効率よく児童を引き渡すことができた。

教職員は実施日を確認していたが、火元はどこかを知らない状況で訓練を行った。事前に決められた計画を予定通りに実行するだけでなく、その時の状況をいち早く理解し臨機応変に対応することや、放送器具だけに頼るのではなく、職員が大きな声で叫ぶことで周囲に情報を知らせる大切さを学ぶことができた。

取組名	授業等における安全学習		
特徴	関係機関との連携や ICT の利活用により、児童が主体的に行動して、周囲の人の安全に貢献できる力や自分自身の安全意識の向上を図った。		
学校名	長門市立通小学校	期日	令和 7 年 7 月 1 日（火曜日） 令和 7 年 9 月 16 日（火曜日）

### 1 ねらい（海の安全教室と防災教室）

- 海での安全な過ごし方や対処の仕方を知り、安全に遊泳することができる。
- 津波災害が起こった時の様子を知り、安全な避難方法について考えることができる。

### 2 概要

#### (1) 海の安全教室

- ・ 令和 7 年 7 月 1 日（火曜日）、仙崎海上保安部職員を講師に招き「海の安全教室」を実施した。
- ・ 離岸流やおぼれた人に遭遇した時の対処法や、ライフジャケットの正しい装着方法など、海での実演も交えながら学習した。



海や川の危険性について学習



ライフジャケットの実演



いろいろな物で浮く体験

#### (2) VR や AR を活用した防災教室

- ・ 令和 7 年 9 月 16 日（火曜日）、山口県防災危機管理課職員を講師に招き「防災教室」を実施した。
- ・ AR や VR での疑似体験により災害の恐ろしさを再確認するとともに、実際に通地域で災害が発生した時に、どのように避難するべきかを考えた。



AR による浸水体験



地域の人と VR 体験



ハザードマップで危険箇所確認

### 3 成果と今後の課題等

- 慣れ親しんだ海でも危険が潜んでいることを再確認し、安全な遊泳方法について真剣に学ぶことができた。
- 地域の方と一緒に防災学習をしたことで、災害時にどのような人と避難することになるのか意識できた。
- 地域の方と一緒に避難訓練をするなど、地域全体の防災意識を高める活動につなげたい。

取組名	外部講師を活用し学んだ安全教育		
特徴	外部講師と連携し指導を受けることを通して、防災・安全の知識や技能を高めた。		
学校名	長門市立向陽小学校	期日	令和7年1月23日（木曜日） 令和7年6月27日（金曜日）

### 1 ねらい（防犯教室と風水害及び土砂災害想定避難訓練及び引き渡し訓練の実施）

- 児童の防犯に対する安全意識を高めさせ、危険回避能力の向上を図る。
- 災害発生時に迅速かつ安全に避難できるようにするとともに、不測の事態に遭遇しても児童が自分の命を自分で守ることができるように、自己防災能力を育てる。

### 2 概要

#### (1) 防犯教室（外部講師 山口県教育庁学校安全・体育課 学校安全管理班）

- ・山口県教育庁学校安全・体育課 学校安全管理班による「学校安全セーフティライフセミナー」に申し込み、全校児童を対象に防犯教室を行った。
- ・児童の登下校時や学校外での生活時における不審者対応を中心に、クイズを行ったりKYT教材をもとに考えたりしながら集中して学ぶことができた。



#### (2) 風水害及び土砂災害想定避難訓練及び引き渡し訓練（外部講師 長門市防災危機管理課）

- ・風水害及び土砂災害を想定した避難訓練や保護者への引き渡し訓練を行った。
- ・長門市防災危機管理課の方から、風水害及び土砂災害時における危険回避についてスライドを見ながら学ぶことができた。また、災害時に備えた防災グッズや非常食などの現物にも触れることができた。



### 3 成果と今後の課題等

成果としては、外部講師の方と連携し指導をしていただくことで、具体的な事例をもとにわかりやすく学習できた。また、危機に遭遇した時の対処法などの話も聞くことができ、よりよい安全教育の充実化が図れた。

児童たちは生活する中で様々な危険と隣り合わせで過ごしているが、危険予測・危険回避能力をいかに働かせ、常に身の安全を確保できるようにしていくかが重要である。事例で示した学習教室直後は、学んだ知識や安全意識が残っているが、日が経つにつれ徐々に薄れてくる。定期的に災害を想定した避難訓練を行ったり、KYT教材を活用しながら考えさせたりして、危険予測・危険回避能力を鈍化させず、いかに向上させていけるかが課題である。

取組名	日置地区災害避難訓練		
特徴	大規模地震を想定した日置地区保育園・小中学校（みすゞ学園）の園児・児童・生徒・地域の方々が共に学ぶ避難訓練		
学校名	長門市立神田小学校	期日	令和7年10月 1日（水曜日）

### 1 ねらい

- 大規模地震が発生したことを想定し、日置地区保育園・小中学校（みすゞ学園）及び長門市の防災体制の連携強化を図るとともに園児・児童・生徒の防災意識の高揚を図る。

### 2 概要

#### ・地震による避難

大規模地震時に起こりうる停電を想定した避難訓練を実施。保育園児も駐在所長と共に小学校運動場に避難した。その後、小学生は、消防署の指導により避難の方法や水消火器を使った消火体験、応急手当の仕方について学んだ。



保育園児も小学校へ避難



水消火器を使った初期消火体験



正しい応急手当の仕方を学ぶ

#### ・命を守るためのお話

いざという時でも訓練をもとにして落ち着いた行動をとり、自分の命を守り、他人の命も守ることができる力を身につけることを学んだ。毛布を使ってけがをした人を運んだり救助したりする方法を学ぶことができた



毛布を使ってけが人を運んだり、移動したりする方法を学ぶ。



児童は、何人かで力を合わせて人を運ぶ指導を受け、毛布を使ってけが人を移動させる体験をした。身近なものを使って自分の命や人の命を守るための方法を学ぶことができた。

### 3 成果と今後の課題等

#### (1) 成果

児童や園児、教職員、地域の方と共に大規模地震時の避難の仕方を学ぶことができた。水消火器を使って消火する体験は、今後起こり得る火災時の初期消火や避難にも役立つ。けがをした人を運ぶ体験では、児童にけが人の運搬の方法を実践を通して具体的に指導していただいたので、児童は内容をよく理解して行動することができた。消防署員に指導を受けることにより、安全意識の向上が図られ、危機対応についての緊張感をもって学ぶことができた。

#### (2) 課題

緊急場面でも正しい判断を行い、常に安全意識をもって行動できるよう、折に触れ学校・地域・保護者でふり返し確認する機会をもつことが必要であると感じた。避難訓練だけでなく行事や学校運営協議会を活用して危機意識の向上を図っていきたい。

取組名	土砂災害対応避難訓練・引き渡し訓練		
特徴	自分事として考える避難訓練		
学校名	長門市立油谷小学校	期日	令和7年6月17日（火曜日）

## 1 ねらい

- 有事に際して（火災・震災・風水害・不審者の侵入など）被害を最小限に食い止めるとともに、児童の災害に対する安全意識を啓発する。
  - ・非常の災害（今回は土砂災害を想定）から児童・生徒の生命を守る。
  - ・不測の事態に遭遇しても、児童が自分の生命を自分で守ることができるように、自己防災能力を育てる。
- 教職員は、児童の安全を守るために、児童を誘導したり、確実に保護者に引き渡したりすることができるようにする。

## 2 概要

### (1) 事前学習を行う。

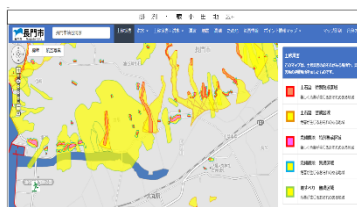
- ・KYT資料を活用して学習する。  
《急な大雨が降り出したら》《雷が鳴り始めたら》

### (2) 避難訓練をする。

【想定】2時間前から大雨が降り続き、大雨洪水警報、土砂災害警戒情報が発令され、裏山の崩落・掛瀧川の氾濫の危険性が高くなったため、第1次避難場所（油谷小学校体育館）に避難し、保護者の迎えを待つ。

#### 【訓練の実際】

- ① 放送を聞いて、帰りの支度をして体育館へ移動する。
- ② 土砂災害に関する危険性や備えについて、長門市防災危機管理課の方から話を聴く。
- ③ 登校班ごとになり、ハザードマップをもとに自分の住んでいる場所における危険性について考える。
- ④ 感想を交流する。



各地区に渡したハザードマップ  
(市防災管理課の方が作成)



登校班ごとにハザードマップを見て、どこが危険か、自分の家の周辺は危険なのか、避難するにはどこを通ったらよいか等、地区担当教員といっしょに話し合っ

### (3) 引き渡し訓練を行う。

### (4) 次の日、振り返りをする。

## 3 成果と今後の課題等

- 各地区のハザードマップがあったことで、児童は自分事として考えることができたようだ。
  - 2年児童：わたしのおうちのまわりは山でこわれやすいことが分かりました。どしゃさいがいがおこりそうになったら、ひつようなものをもっていくことが分かりました。
  - 4年児童：登校班のみんなで家の周りを確認して、意外とあぶないところが多いと分かりました。ひなんする道もあぶないところがあったので、遠回りをして避難所に行きたいと思いました。
  - 6年児童：ぼくの家の周りには川が近くにあるので、気を付けることと、避難するとき学校だったら学校に行く道が危険なので、ほかの所から避難することを知りました。
- 教 員：学年ごとに確認したら難しかったかもしれないが、登校班で確認したことで低学年にも分かりやすかった。ハザードマップを見て自分の家や周辺地域が土砂災害の危険がないか考えることがよくできていた。自分事として考える機会になっていた。
- 全校で登校班ごとに集合するという経験がこれまでなかった。今後、保護者に引き渡しが必要となる非常事態が起こる可能性もあるので、学期に一度ある集団下校の会において、登校班ごとに静かに集合する機会を作っていきたい。

取組名	ICTを活用し、関係機関と連携した避難訓練		
特徴	コミュニティ・スクールのよさを生かし、関係機関と連携した不審者避難訓練及び県の防災体験学習講座によるAR・VR機器を用いて災害の疑似体験をすることを通して、主体的に行動することのできる力を育成した。		
学校名	阿武町立福賀小学校	期日	令和7年6月25日（水曜日） 令和7年9月30日（火曜日）

### 1 ねらい（不審者対応避難訓練と引渡し避難訓練、土石流対応避難訓練）

- 不審者侵入に備え、警察や関係諸機関、保護者と連携した訓練をすることを通して、学校の危機対応能力の強化と安全に関する児童の資質能力の向上を図る。また、引渡し避難訓練を通し家庭との連携を図る。
- 大雨とそれに伴う土石流が発生したという想定の下、県の防災体験学習講座でAR・VR機器を用いて災害の疑似体験をすることを通して、災害の実感をイメージし、災害への備えについて意識を高める。

### 2 概要

#### (1) 不審者避難訓練

- ・ 給食室から不審者が侵入し、教職員が対応している間、児童は職員室に避難する。
- ・ 職員室で知らせを聞いた職員は110番通報（当日は駐在所職員の携帯電話へ）する。
- ・ 警察が到着し、不審者確保を確認後、保護者へ引渡しの一斉メールをながす。  
正面玄関にて保護者へ児童を引き渡し、児童は保護者と共に児童昇降口から靴を履き替えて下校する。
- ・ 校長室にて警察、少年安全サポーターより教職員向け指導講話を受ける。



児童が不審者の侵入に気付く様子 第1発見者が対応している様子 児童が校長室に避難し待機している様子

#### (2) 土石流対応避難訓練

- ・ 校内放送を聞いて、垂直避難を行う。
- ・ 県の防災体験学習講座でAR・VR機器を用いて災害の疑似体験をすることを通して、災害の実感をイメージし、災害への備えなどについて話し合う。
- ・ 自分たちの学校が土石流災害指定区域に指定されていることや土石流の被害についてハザードマップを用いて学習し、安全な避難経路について話し合う。
- ・ 避難カードを作成し、家庭と共有する。



AR・VR機器を用いて災害の疑似体験をする

児童に示したハザードマップ

### 3 成果と今後の課題等

本校は職員数、児童数が非常に少ないため、視認による死角が多く、簡単に侵入できてしまう。侵入された際に対応できる職員が現実的に少ないことから、児童が主体的に行動することについての意識を一層高めていく必要があった。今回は少年安全サポーターに不審者役を依頼したことで、職員も自分たちだけで対応する難しさを感じ、児童に素早く指示して避難を促したり、関係機関への連絡を早くしたりすることが重要であると共通理解することができた。

また、土石流対応避難訓練では、児童は校舎のある場所が土石流災害指定区域であることにショックを受けていたが、被害の様子を学習することで、安全な避難の仕方について理解することができ、落ち着きを取り戻すことができた。土石流については、県の防災体験学習講座でAR・VR機器を用いることで被害の様子をイメージすることができていた。また、外部の方から説明を受けることにより、災害対応への意識も高まった様子だった。

取組名	不審者想定避難訓練		
特徴	教職員・生徒に対して、事前に日時・場所等を告げない避難訓練		
学校名	岩国市立錦中学校	期日	令和7年7月4日（金曜日）

## 1 ねらい

非常事態を想定した総合的な訓練を実施することにより、教職員、生徒が冷静・迅速・適正な判断ができるようにし、また、安全に避難できる態度を身に付ける。

## 2 概要

### (1) 当日までの流れ

- ①教職員（管理職・教務主任・生徒指導主任は除く）と全校生徒には、7月1日（火曜日）～7月4日（金曜日）のいずれかの時間帯（50分程度）に不審者対応の避難訓練を行うことを事前に告知する。
- ②7月1日（火曜日）の朝学活時に各クラスで担任から予告。緊急時の避難における約束事等を危機管理マニュアルを基に確認した。
- ③少年安全サポーターと打ち合わせ（教頭 6月27日（金曜日））を行い、7月4日（金曜日）3校時に実施することを確認した。当日は少年安全サポーターが不審者役となった。

### (2) 当日の避難行動

- ・ 10:40 不審者侵入・発見
  - ・ 初期対応【発見者】※危険物を隠し持っていないかに細心の注意を払う。
  - ・ 職員室へ連絡【発見者】※大声で知らせる。
- ・ 10:43 避難放送①【教頭】※生徒は教室待機  
110番通報【事務職員】※実際にダイヤルする。  
事前に警察に報告をしており、訓練として対応。  
不審者対応【複数名】※落ち着かせることに専念する。
- ・ 10:47 避難放送②【教頭】※避難開始を告げる。  
避難開始【授業者】※体育館まで誘導する。



不審者に対して教員2名が対応

### (3) 指導講話

- ・ 10:55 少年安全サポーターによる指導講話  
※不審者対応についての話の他、SNS等におけるネットモラルについての話もしていただいた。

### (4) 各学級で振り返り

- ・ 11:15 ※避難訓練を終えての感想や講話から学んだことを記入。

## 3 成果と今後の課題等

- 今回の避難訓練は、日時を告知しない形をとったので、教職員・生徒ともに緊迫感、リアル感をもって訓練できた。全員が落ち着いて迅速に避難することができた。
- 今回の訓練によって、危機管理マニュアルの表記を見直すべき箇所や追記せねばならない箇所が見つかったため、日頃から確認することの重要性を感じた。生徒の振り返りからは普段から危機意識をもって学校生活を送ることが必要であるとの記述がみられた。
- 今後、不審者想定避難訓練を行う際は、近隣の交番にも協力を依頼するなどし、教職員・生徒ともに他人事ではなく自分事として捉えることができる訓練を実施していきたい。

取組名	和木町園小中合同避難訓練		
特徴	地域協育ネットのよさを生かし、防災の意識を高めた。		
学校名	和木町立和木中学校	期日	令和7年5月26日（月曜日）

## 1 ねらい

大雨による土砂災害や、小瀬川が氾濫する恐れのある状況で、園児・児童・生徒を安全に避難させることができるように訓練する。

## 2 概要

### (1) 日時

令和7年 5月26日（月曜日） 9：35～10：25

### (2) 対象者

和木町の園児児童生徒及び教職員、岩国地区消防組合東出張所職員、和木町役場職員、和木町教育委員会職員

### (3) 当日の流れ（災害の想定）

- ・ 9：30 下関地方気象台が大雨洪水警報を発表
- ・ 9：40①和木町役場が災害警戒本部を設置
  - ②和木町役場企画総務課が「高齢者等避難」を発令
  - ③企画総務課→町教委→園小中と電話連絡
  - ④避難計画に基づき、小→校舎3階、中→グラウンド集合→園児と校舎3階へ避難  
園は中学校グラウンドに移動し、中学生と一緒に中学校3階に避難  
(中学生1人につき、園児1～2人を連れて上がる)
  - ⑤避難完了後、園小中→町教委→企画総務課と電話連絡  
(完了時間、職員子どもそれぞれの避難者数、異常の有無)
  - ⑥終了後、グラウンドに移動して校長（園長）が講評を行う
- ・ 10：25 各学校で避難訓練を終了

### (4) その他

- ・ 避難するときは、無言・迅速に行動することを徹底した。ただし、園児への励ましや声かけ等は適切に行わせる。
- ・ 園小中や関係機関と合同で避難訓練を行うことで、協働性の向上を図った。
- ・ 特に中学生には地域の担い手として共助の意識を高めさせた。中学校は要配慮者利用施設であり、実際の災害でも多くの町民が避難してくることが想定されるため、訓練を通して、要配慮者への気遣いや誘導を担う体験を積ませたい。

## 3 成果と今後の課題等

事前に園・中の中で綿密に計画を練り、生徒にも園児への接し方などの指導をしていたおかげで、とてもスムーズに訓練を実施することができた。

しかし、その一方で、実際の災害時にこれだけ落ち着いた行動がとれるのか、想定外のことが起きたときに対応できるのか等が課題である。

本町では、合同避難訓練と合同引き渡し訓練を隔年で実施している。今年度は避難訓練の年であったが、9月、近くで強盗事件が発生し、急遽保護者への引き渡しを実際に行った。引き渡し訓練は昨年度であったが、その経験を生かし、町全体で、スムーズな引き渡しを行うことができ、訓練が役に立っていると実感することができた。今後も、様々な状況での避難に対応できるよう工夫した訓練を行っていききたい。



中学生がグラウンドへ整列



こども園から園児が出発



園児が合流



校舎へ向かって移動開始



校舎内の移動の様子



校舎内に整列



終了後、グラウンドへ



中学生が園児と一緒に整列



校長講評



園長講評



中学生と園児の交流



園児とのお別れ

取組名	地域と連携した防災学習		
特徴	地域・保護者・生徒それぞれが防災について学び、意識を向上させた。		
学校名	柳井市立柳井西中学校	期日	令和7年 9月30日（火曜日） 令和7年11月25日（火曜日）

### 1 ねらい（避難経路の確認と防災道徳）

- 地域住民として地域環境の理解と、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。
- 1年生を対象に、防災を教材とする道徳参観授業を行い、地域住民・保護者・生徒が意見交換を行うことで、「自助・共助・公助」の力を身に付け、防災意識の向上を図る。

### 2 概要（避難経路の確認と防災道徳）

#### (1) 学校外への避難に向けた経路の確認

- ・令和7年9月30日（火曜日）に、フラワーランドへの吟行を全校で実施。移動については、避難経路を徒歩にて行った。災害時を想定して危険箇所の確認を行いながらの移動とした。



#### (2) 地域道徳（防災内容）

- ・令和7年11月25日（火曜日）に1年生で実施。
- ・柳井市危機管理課、地域コーディネーター、防災キャンプ実行委員会副会長による地域の特色と過去の災害について講話をいただき、保護者が参観する中で、実生活における行動について深く考えた。



### 3 成果と今後の課題等

自然災害の少ない地域ではあるが、近年の大雨による災害は生徒自身が自分事として捉え、対策の必要性を感じている。避難経路については、小川や道幅の狭さ、路肩の雑草など緊急時に向けて日頃から整備しておく必要があると感じ、地域清掃ボランティアなどへの参加意欲につながった。

1年生対象の地域連携授業では、保護者に参観という形で授業に参加していただいた。柳井市危機管理課・保護者という異なる立場で、避難についてそれぞれの考えを生徒に伝えていただき、考えを深めた。今後は地域・学校・保護者が一緒に防災について意識を向上する活動を計画する必要がある。

取組名	地域と連携・協働した合同防災訓練 「みなでみなを守る」安心・安全な町づくり ～大島中学校防災探究学習「わが町周防大島を災害から守る担い手になる」～		
特徴	学校と地域、行政、関係機関が連携・協働した避難所開設訓練 災害時に中学生が主体となる避難所運営シミュレーション		
学校名	周防大島町立大島中学校	期日	令和7年10月2日（木曜日） 令和7年10月3日（金曜日）

## 1 ねらい

南海トラフ巨大地震の発生が現実視される中で、災害発生時における命を守る行動や支援のあり方を学ぶことを通して、当事者意識をもって安心・安全な町づくりに貢献しようとする態度を育む。

## 2 概要

### (1) 課題設定 10月2日（木曜日）

- ・過去の災害、身近な災害を学ぶ（東日本大震災／大島大橋貨物船衝突事故による断水）
- ・内閣府シミュレーション動画視聴（南海トラフ巨大地震）
- ・ハザードマップによる津波災害の検証（地域別グループ）
- ・みなを守るためにしなくてはならないこと、できることを考えよう！（自助・共助）
- ・避難所開設のためのグループ編成



断水時の給水体験



活動を記録する広報班



ハザードマップによる津波災害の

### (2) 避難所開設訓練（避難行動、避難所開設・運営、炊き出し体験）10月3日（金曜日）

全校生徒・教職員、保護者、地域住民、さつき園、中保育園、町総務課消防防災班、町赤十字奉仕団、町女性防火クラブ、自主防災組織など総勢160名により実施。（断水想定）

- ・町総務課消防防災班職員による避難所開設についての講義
- ・各グループに分かれ、中学生と地域住民による避難所開設・運営、炊き出しなどの体験
  - ①受付・救護班 ②資材搬入・設営班 ③炊き出し班 ④ボランティア班 ⑤広報班
- ・余震発生を想定した避難行動（日時等を事前に告げずに行う訓練：想定震度5弱）
  - 中学生による、隣接するさつき園生・保育園児の避難行動支援 津波を想定した垂直避難
- ・簡易テント、簡易ベッド、簡易トイレ、ダンボールベッドなどの組み立て、設置



カレーライス湯煎の準備



湯煎カレーライスの配布



段ボールベッドの組み立て



体育館に設置された簡易テント

## 3 成果と今後の課題等

- 町総務課消防防災班や赤十字奉仕団などと連携した、地域で初めての避難所開設訓練であったが、地域住民や保護者など160名以上の参加があり、災害時の自助・共助について実効的な体験をすることができた。
- 地域の担い手である中学生が主体的に行動し、避難して来られた地域住民に積極的な働きかけを行うことで、自助・共助について認識を深めることができた。
- この取組が地域防災意識の高揚につながるよう、さらなるアプローチが必要である。

取組名	様々な災害に対する避難訓練を通して、危機対応		
特徴	地震や津波、火災、不審者対応の避難訓練を通して、想定した避難経路の確認や、自分の命を守る行動を取れるよう危機意識を高める。		
学校名	平生町立平生中学校	期日	令和7年5月16日（金曜日） 令和7年6月27日（金曜日） 令和7年11月21日（金曜日）

## 1 ねらい

いっどこでどんな災害が起こるか分からない様々な災害に対応し、実際の災害や緊急事態を想定し、事前に安全な避難経路を理解・確認したり、パニックに陥らず、落ち着いて安全に避難できる行動したりすることを身につける。

## 2 概要

### (1) 地震・津波対応（町役場との連携）

- ・非常災害時に際して、安全かつ敏速に避難できる訓練を行うとともに防火・防災に対する理解を深め、併せて身体や生命の安全を確保し緊急時に対応できる能力を養う。
- ・地震・津波発生から避難時における基本動作と安全行動について理解させる。



### (2) 不審者対応訓練（警察署との連携）

- ・不審者侵入などの緊急時における生徒の安全を確保するための訓練を実施し、組織体制を確認するとともに、侵入者への対応の方法や牽制方法の習得及び教職員や生徒の安全管理の意識の啓発を図る。
- ・緊急時の避難連絡はいつ入るか分からない。不審者がどのような行動を取るか予測不能なため教室にバリケードを築き侵入を防ぐ。
- ・バリケード作成のポイント



- ①短時間で作るためにはどう行動すべきか。
- ②安全に築くためには、何に注意すべきか。



### (3) 火災時避難訓練（消防署との連携）

- ・非常災害時に際して、安全かつ敏速に避難できる訓練を行なうとともに防災・防災に対する理解を深め、併せて身体や生命の安全を確保し緊急時に対応できる能力を養う。
- ・避難時における基本的動作と安全行動について理解・実践させる。
- ・非常時における職員の避難誘導體制の確認を行う。



## 3 成果と今後の課題等

3回の訓練を通して、生徒や教職員は「どんな危険が想定されるのか」「安全に避難するためにはどのように行動すべきか」「決められた動きを守ることの大切さ」「自分で状況を判断して行動することの必要性」などのような重要な点について考えることができました。

さらに、専門家による講話や避難訓練の講評を聞くことで、訓練の想定外の事態が起きた場合にどう対応すればよいかについても学ぶことができました。

避難訓練に関しては、火災時だけを考えても、火災現場の位置や風向きによって避難経路を柔軟に判断する必要があります。こうした経験を通じて、生徒も教職員も「様々な災害を想定した訓練を事前に行っておくことが重要である」と気づくことができました。

今後も多様な状況を想定した訓練を積み重ねていくことが求められます。

取組名	地域と連携して行う防災意識向上の取組		
特徴	コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、大人と子どもそれぞれが学びを深め、防災に関する意識を高めた。		
学校名	周南市立富田中学校	期日	(1) 令和7年 9月27日 (土曜日) (2) 令和7年11月16日 (日曜日)

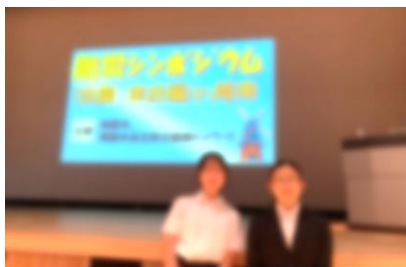
### 1 ねらい

- 様々な立場や世代の方々との意見交換を通して、地域防災における自身の役割と責任を自覚し、将来、地域に貢献しようとする防災意識と実践力を身につける。
- 「自助」のための具体的な行動と、「共助」に必要な技能について考える。また地域住民との合同訓練を通して、地域防災の一員としての意識を高める。

### 2 概要

#### (1) 防災関係者や地域の方々と中学生とのパネルディスカッション

- ・ 令和7年9月27日 (土曜日) に開催された地域のイベント「防災シンポジウム」の中のパネルディスカッションに中学生代表として本校生徒2名が参加した。南海トラフや地域・家庭の防災に関する意見交換をした。
- ・ 後日全校集会にて、イベントに参加した生徒が全校生徒に防災に関する内容を説明した。



本校代表生徒2名



パネルディスカッションの様子

#### (2) 地域合同防災訓練への参加

- ・ 令和7年11月16日 (日曜日) に実施された地域防災訓練に本校の生徒と教職員が参加した。
- ・ 地域住民や防災関係者とともに、救助訓練見学、炊き出し訓練、降雨・煙体験等、防災に関する様々な体験活動を行った。



煙体験の様子



炊き出し訓練の様子



高台へ避難する生

### 3 成果と今後の課題等

- 地域住民・防災関係者との合同訓練に参加したことで、地域防災の一員としての意識が高まった。また、実践的な活動を通して、「共助」のための技能と知識を得ることができた。
- パネルディスカッションに参加した生徒が後日全校集会で説明したことで、参加者自身が防災リーダーとしての役割を果たすことができ、学校全体の防災意識の向上に貢献した。
- 今回の参加が単発のイベントで終わらないよう、次年度以降も継続的・計画的に地域合同訓練やシンポジウムへ参加するための学校と地域の連携体制を確立する必要がある。
- 家庭での防災会議の実施や、防災チェックリストの作成など、家庭を巻き込んだ活動を促す取組が必要である。

取組名	「安全の日」の取組		
特徴	くだまつ防災講座の活用と引き渡し訓練を実施し、防災の意識を高めた。		
学校名	下松市立久保中学校	期日	令和7年6月24日（火曜日）

### 1 ねらい

- 身近な危険、防災情報の収集、避難の方法等についての理解を深め、防災意識を高めるとともに、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。
- ESG（避難所運営シミュレーション）訓練を行い、実際に本校の体育館が避難所になった際のレイアウト・運営を考えることができる。

### 2 概要

#### (1) くだまつ防災講座

- ・全学年が、身近な危険、防災情報の収集、避難の方法等について防災講座を受講した。
- ・1年生は避難所資機材の組立てを体験、2年生は避難所のレイアウトを考え、避難所資機材の組立てと考えたレイアウトをもとに、模擬避難所の設置を体験、3年生は教室でESGゲームを体験した。



防災講座



資機材の組立て



レイアウトの相談



ESG ゲーム

#### (2) 小中合同避難訓練

- ・近隣で凶悪な不審者事案が発生した際の、生徒の安全を確保する訓練を小中同じ日時で実施した。緊急放送により、生徒を体育館に誘導し、保護者にメール配信し、引き渡し訓練を行った。



待機する生徒と受付の様子



引き渡しの様子

### 3 成果と今後の課題等

- 最初に、下松市の災害について具体例を示してもらったことで、生徒は身近な危険について自分事として考えることができた。そのため、その後の防災情報の収集や避難の方法等についての話を真剣に聞くことができた。
- 1年生は段ボールベッド等の組立て、2年生は避難所のレイアウト作成、3年生はESGゲームを行うことで、昨年度の講座内容を生かし、さらに広く、深く防災について考えることができた。
- 小中合同の引き渡し訓練を行うことで、子どもが小・中学校にいる場合の保護者の動きについて具体的に考える機会となった。
- 来年度に向けて、地域と連携した防災訓練を考えていきたい。

取組名	危機発生時対応シミュレーション		
特徴	傷病者対応のシミュレーション演習を行うことで、実際の現場に近い状況を再現することにより、実践的な判断力・対応力の向上を図った。		
学校名	下松市立下松中学校	期日	令和7年8月21日（木曜日）

### 1 ねらい（危機発生時対応シミュレーション）

- 生徒・教職員の生命を守るため、組織的な危機管理体制の充実を図る。
- 第一発見者になった時の対応方法の確認をし、誰もが対応できるようになる。

### 2 概要

#### (1) アクションカードを用いた危機発生時の対応訓練

- ・実践に近い状況で対応訓練を行えるよう、教職員には事前に研修の内容を知らせず、当日その場で研修内容の共有を行った。
- ・管理職以外はランダムに傷病者役、各学年部教員役、保護者役、生徒役、記録役等の役割分担がなされた。傷病者等には具体的な指示が出され、臨場感のある危機発生時の演技がなされた。
- ・シミュレーションの様子は、すべて動画で撮影した。
- ・教員役になった者は、アクションカードを用いながら、対応を行った。



対応訓練の様子



講師からの指導助言の様

#### (2) 対応訓練の様子（映像）を用いた振り返り

- ・シミュレーションの様子を撮影した動画を見て、それぞれの対応について振り返りを行った。
- ・講師（救急科医師）から指導助言をもらった。

### 3 成果と今後の課題等

- 実際にアクションカードを取りに行き対応を行ったため、どこにあるのか、どのように使えばいいのか、ということについて再確認することができた。
- 内容が知らされていない訓練だったことにより、現在の学校や各教員の対応力の実情を把握し、課題を明確にすることができた。
- 傷病者だけでなく、傷病者を見たことでパニック状態にある生徒がいたり、AEDを使う必要がない状態であったりするなど、実際に起こりうる様々な要素が含まれたシミュレーションであったため、より臨場感をもって対応にあたることができた。
- タブレット端末を用いてシミュレーションの様子を記録しておくことにより、それぞれの対応について俯瞰的に振り返ることができた。
- 組織として、危機に対してどのように対応するか、危機管理マニュアルをもとに対処の在り方を定期的に確認し、組織対応の充実を図っていくことが必要である。
- 人任せにするのではなく、自分自身が判断し行動できるように、各教員が主体的に考える研修の機会を、今後も定期的に設定していきたい。

取組名	危機管理対応（熱中症への対応）		
特徴	熱中症への対応について、ロールプレイング演習を行い、緊急時を想定して実際に行動する中で、気づいたことやうまくいかなかったことについての意見を出し合う。さらに、演習の様子を消防署の救急救命士の方に見ていただき、専門的な立場からの指導と助言をいただく。この活動をとおして、教職員の緊急時の対応についての改善をはかるとともに、危機管理対応への意識を高めることができる。		
学校名	下松市立末武中学校	期日	令和7年8月1日（金曜日）

### 1 ねらい

- 熱中症の初期症状を知り、知識を深めるとともに、発生時における対応をロールプレイング演習で行い、実際の動きを確認する。
- 切れ目ない救急の連鎖を繋ぐために、校内協力体制に基づく AED を使用した心肺蘇生法の実技研修により専門的な技能を身に付ける。

### 2 概要

- ・熱中症の疑いのある生徒の対応について、ロールプレイング演習をとおして検討する。役割を演じた教職員や、その動きを観察していた教職員がそれぞれの立場から気づきや意見を出し合い、共有する。
- ・救急救命士からロールプレイング演習の様子について指導助言をいただき、さらに、AEDを使用した心肺蘇生法を教えていただく。

#### (1) ロールプレイングの設定

- ・中学3年生の男子生徒に熱中症を疑われる症状が出る。  
1校時の体育終了後から頭痛の症状があった。4校時(英語)授業中、急にめまいを訴え、机に伏せる。(大量の発汗→体が熱い→だるい)
- ・この日は養護教諭が不在である。
- ・救急隊到着までのシミュレーションを行う。

#### (2) ロールプレイングの役割

- ・教室：熱中症生徒、第一発見者（授業者）、その他生徒
- ・校長室：校長
- ・職員室：教頭、救急処置係、記録係、AED係、救急車への連絡係、救急車誘導係、保護者連絡係（担任）、その他生徒対応係

#### (3) その他

- ・役割のない教職員は、動きを観察し、対応についてのよい点と課題を見つける。



### 3 成果と今後の課題等

熱中症が疑われる生徒への対応をロールプレイング演習で行うことで、より具体的に考えることができ、実践力を身に付けることができた。また、教職員に専門的な知識や技能が足りないことを感じることもでき、学びへの意欲につながった。事後のアンケートでは、生徒も一緒に参加できるとよい、など前向きな意見が多数あり、より充実した研修となるよう内容をさらに検討していきたい。

取組名	近隣幼稚園との合同による垂直避難訓練		
特徴	大雨により、本校生徒およびマリア幼稚園児が本来の避難場所である室積コミュニティセンターへの避難が困難になったことを想定して行った。		
学校名	光市立室積中学校	期日	令和7年10月9日（木曜日）

## 1 ねらい

- 安全意識・能力を育む「生活安全」の取組を推進し、学校教育活動全体を通じた「安全教育」の充実を図る。
- いつ起こるか分からない火災・地震などに対し、繰り返し訓練（避難経路および人員点呼や報告体制の確認を含む）を行うことを通じて、災害時における初期行動や避難時の集団行動（安全・無言・迅速）を身に付けさせるとともに、防災意識の向上をめざす。

## 2 概要

### (1) 事前指導

- ・ 本訓練の意図・方法を説明し、避難経路および避難場所及び「土砂災害避難指示が発令された場合の避難について」の内容を確認した。
- ・ 校舎西側への避難  
本校校舎の東側は、土砂災害警戒区域に含まれているため、3階西側への避難とすることを伝えた。

### (2) 実技訓練

- ・ 災害想定

10時40分頃大雨による避難指示発令

- ・ 中学生のみの避難  
2階に教室のある2・3年生は3階へ避難。  
3階に教室のある3年生はそのまま教室待機。
- ・ 幼稚園児とともに避難  
幼稚園児の本校への到着を受けて、3年生が幼稚園児の避難支援を行う。転倒等がないよう配慮しつつ校舎3階まで誘導。

## 3 成果と今後の課題等

- 室積コミュニティセンターまでの距離を考えると、幼稚園児が本校に避難する可能性もあり、避難経路および避難方法を確認することができた。
- 教職員を対象とした校内研修の実施について、基礎知識の習得、状況想定型訓練による実践力向上、マニュアルの想定を超えた事態等に対処するための応用力の獲得まで、段階的に教職員の能力向上を図る。
- 松原保育園も近くにあり、マリア幼稚園同様合同の避難訓練を検討が必要である。
- 小学校および地域や関係機関と連携した訓練の実施や、避難所開設時の教職員の関わりについて、地域と連携した危機管理体制を整備していきたい。



取組名	外部人材を活用した避難訓練の実施		
特徴	外部人材を活用して、防災の意識を高めた。		
学校名	光市立島田中学校	期日	令和7年4月10日（木曜日） 令和7年6月26日（木曜日）

## 1 ねらい

- 学校に不審者が侵入した場合でも、落ち着いて避難できるようにする。
- 島田中学校区での「平成30年7月豪雨」の被害を知り、土砂災害が起こった場合にも落ち着いて避難できるようにする。
- 「光市立島田中学校危機管理マニュアル」の見直しを行う。

## 2 概要

### (1) 山口県警察本部生活安全部人身安全・少年課少年安全サポーター

令和7年4月10日（木曜日）に、山口県警察本部生活安全部人身安全・少年課少年安全サポーターの深本忠男氏を講師に招いて「不審者への対応」をテーマに全校生徒に講演をしていただいた。

### (2) 学校防災アドバイザー

令和7年6月26日（木曜日）に、学校防災アドバイザーの山本晴彦氏と清水芳子氏を講師に招いて、土砂災害が起こった時の垂直避難の訓練を行い、アドバイスをいただいた。

清水晴彦氏には、全校生徒・全教員に対して「平成30年7月豪雨」の被害についても講演していただいた。

また、清水芳子氏には、「光市立島田中学校危機管理マニュアル」へのアドバイスをいただき、後日改訂版を作成した。



校舎の4階に垂直避難している様子



島田中学校区のハザードマップを用いた講演会

## 3 成果と今後の課題等

- 不審者の対応では、初動が大切であり、基本的には教師が不審者に対応し、生徒は不審者を刺激しないように安全な場所に避難することを教えていただいた。
- 「平成30年7月豪雨」の被害については、生徒の記憶が薄れてきているので、講師の方に教えていただいたのが良かった。
- 校舎の4階に全校生徒を垂直避難させた。落ち着いて行動できたので良かった。
- 「光市立島田中学校危機管理マニュアル」の見直しを行い、いただいたアドバイスを生かしながらマニュアルの改訂を行った。
- 4月と6月の避難訓練では、事前に生徒に連絡している中で担任が教室から誘導している。「日時を告げない避難訓練」の実施についても今後検討していきたい。

取組名	完全ブラインド型の避難訓練		
特徴	不審者対応避難訓練と地震・火災避難訓練は、管理職以外だれも知らない日時を事前に告げない実践的な避難訓練を実施した。		
学校名	防府市立牟礼中学校	期日	令和7年6月2日（月曜日） 令和7年11月4日（火曜日）

## 1 ねらい

- 不審者対応避難訓練と地震・火災避難訓練は、管理職のみが日時を知っている実践的な避難訓練を行うことにより、いつ起こるか分からない危険や災害等に生徒・教職員共に適切に対応する力を身につけるとともに、場面設定をすることにより、事件や災害の中で、予期せぬ事態の発生に対しても、生徒・教職員共に冷静に判断し、適切に対応する力を身につける。

## 2 概要

### (1) 不審者対応避難訓練（6月2日実施）

- ・日時を事前に告げない実践的な避難訓練型で不審者対応避難訓練を実施した。「不審者の第1発見者が生徒」という場面設定で行なった。不審者を発見した生徒の対応、生徒からの連絡を受けた教員の対応を検証する目的で実施した。昼休みの終わり頃、5校時の授業開始前に、不審者役の元警察官の方が渡り廊下から教室棟に侵入し、生徒のいる2階に上がったが、第1発見者の生徒は、そのときは不審者とは思わず、何も対応しなかった。しばらくして行動の様子が変わると感じ、ようやく教室で授業の準備をしている教員に、不審者の侵入を伝え、教員が対応するという状況であった。生徒が不審者侵入に気付くのが遅れたため、教員の動きが遅れた。教員は、適切に対応できたが、不審者が侵入し、不審者の確保まで、時間がかかった。訓練後は、体育館において、学校安全サポーターの方による不審者から自分自身の身を守る方法等について、演習を交えながら、生徒へ指導があった。生徒は真剣な眼差しで指導を受けていた。



▲【学校安全サポーターによる指導】



### (2) 地震・火災避難訓練（11月4日実施）

- ・地震・火災に対する避難訓練も日時等を告げずに行なった。事前に学校防災アドバイザーと打ち合わせを行ない、地震から火災に発展、視聴覚室からの出火という想定で行なった。一つの避難経路が通れないという設定で行なった。教職員がどう判断し、生徒を安全に避難させるかを検証した。5校時が始まってしばらくして、地震が発生した。生徒は放送を落ち着いて聞き、自分の身を守る行動を取ることができた。火災報知器が鳴った時、教職員は素早く行動し、視聴覚室前を避けて避難誘導するとともに、消防署への通報も適切に行なうことができた。2名の学校防災アドバイザーが来校され、訓練の様子を見ていただいた。生徒の落ち着いた素早い行動、教職員の早く適切な誘導、そして、グラウンドの中央に避難させる適切な判断について、高い評価を得た。学校防災アドバイザーから、生徒に対して、直接地震や火災が起こった場合の自助と共助について指導を受けた。



▲【アドバイザーによる指導】



## 3 成果と今後の課題等

不審者対応については、生徒があいさつや声をかけることによって、不審者かどうか判断することができることが課題である。また、地震・火災への対応については、様々な状況を想定して場面設定をした訓練を行なうことによって、教員・生徒ともに適切に対応する実践力を身につけることが課題である。

取組名	1. 日時の予告なし不審者対応訓練 2. 生徒参加型安全点検の実施		
特徴	ウェルビーイングな学校づくりをめざした、学校安全に対する生徒の主体性と教職員間の連携強化による当事者意識の向上		
学校名	防府市立小野中学校	期日	令和7年 9月11日(木曜日) 令和7年 11月25日(火曜日)

## 1 ねらい

- 学校教育目標の実現に向けて、生徒が将来にわたって社会の安全に貢献する力の育成だけでなく「安全に過ごせている」という感覚を育み、安心感と自己肯定感を高めさせる。
- 教職員は、生徒の安全確保や不審者への対応、関係機関への連絡等を演習することにより、防犯に関する組織的対応力の向上を図るとともに、その体制整備を見直す機会とする。
- 生徒は、不審者からの声かけ事案などの場面で自分の身を守るための心得や危険予測・回避能力を身に付けるとともに、犯罪に対して自分の行動や態度を省みる機会とする。

## 2 概要

### (1) 不審者対応訓練

- ・ 生徒には、事前に「1週間以内に訓練を行う」とのみ知らせ、朝の会等で不審者対応に関する想定問答を学級で行い、危機に向き合う当事者意識の醸成を図った。訓練当日は、緊張感や恐怖感が伴う状況であったものの、事前指導の成果もあり、生徒は落ち着いて行動し、自主的に行動する姿も見られた。
- ・ 教職員には、あえて事前マニュアルを提示せず、侵入箇所の情報も与えない状態で実施した。限られた情報の中で判断を求められる状況であった。
- ・ 訓練後には、少年安全サポーターおよび、市スクールガードリーダーの方より全校生徒に指導をいただき、対応に必要な具体的な行動や心構えを学ぶ貴重な機会となった。



少年安全サポーターによる  
さすまたの実演



犯人を囲む教員

### (2) 生徒の視点による安全点検

生徒自身が学校内の安全を主体的に考える機会をつくるため、「生徒参加型安全点検」を初めて実施した。文科省の「安全点検方法等の解説動画シリーズ」を視聴させた。生徒はグループに別れて廊下、階段、理科室などを巡視し、生徒目線での気づきを記録した。その後、生徒からの気づきや意見は、掲示したり、担当職員が整理し対応が必要な箇所は速やかに修繕や改善を行ったりした。



理科室で椅子の点検



美術室の窓の点検

階段の点検



## 3 成果と課題等

不審者対応訓練では、マニュアル・予告なしで実施したが、教職員にとって実りある演習となった。緊迫感の中で、生徒の安全確保、緊急伝達体制もよくできた。生徒においても、冷静さや判断力の必要性を強く感じていた。また、生徒の視点による安全点検では、その意義や日頃の安全意識の重要性に多くの生徒が気づいた。これまでの教職員の安全点検に感謝を表す生徒もいた。今回の二つの取組は、教職員の危機対応力の向上と、生徒主体の安全意識の醸成という、双方の視点から学校全体の安全確保につながる重要な実践となった。安全確保の技術の習得だけではない、皆で安心できる学校をめざす意識に大いにつながった。

取組名	交通面の安全教育の充実		
特徴	生徒が主体的に考える活動を取り入れ、危険回避能力を育んだ。		
学校名	宇部市立西岐波中学校	期日	令和7年 9月10日（水曜日） 令和7年10月10日（金曜日）

### 1 ねらい（危険予測学習資料集の活用と学校安全セーフティーライフセミナーの実施）

- 危険予知能力と問題解決能力を向上させ、事故や災害等を未然に防ぐ能力を育むこと。
- 生徒が現在の交通情勢や交通事故の要因について知り、交通安全に対して意識を高めること。

### 2 概要

#### (1) KYT資料集の活用

- ・ 令和7年9月10日（水曜日）の終わりの会（10分間）で、資料集を活用した危険予測学習を各クラスで担任主導で実施。
- ・ 写真を提示し、考えられる危険について周りの生徒と話し合わせ、何人かに発表させて共有した。
- ・ 共有した危険に対して、その対処法をクラス全体で考え、確認をした。



考えられる危険を発表



対処法を確認

#### (2) 学校安全セーフティーライフセミナーの実施

- ・ 令和7年10月10日（金曜日）に全校生徒で体育館にて実施。
- ・ 山口県教育庁学校安全・体育課学校安全管理班の方による講話を聞いた。
- ・ 運転適正テストや危険予測学習などが行われ、周りの生徒と意見交換しながら生徒が主体的に学習した。



講話のめあて



運転適正テスト



耳（音）による状況把握訓練

### 3 成果と今後の課題等

- 終わりの会での実施であったが、生徒はクイズ感覚で危険予測やその対処法を考えることができていた。クラスによって危険予測学習を確保できる時間が異なっていたため、どのように継続して実施するかが今後の課題である。
- 学校安全セーフティーライフセミナーは、山口県教育庁学校安全・体育課学校安全管理班の方が、生徒に問いかけをされながら分かりやすく説明等をされた。生徒にとって、普段の交通安全について振り返る貴重な時間となった。

取組名	「美東でまなぼうさい」(防災参観日の実施)		
特徴	生徒と教職員、学校運営協議会委員、消防本部で組織する「全員プロジェクト会議」により企画・運営された「協働的・実践的な防災訓練」の実施		
学校名	美祢市立美東中学校	期日	令和7年6月28日(土曜日)

## 1 ねらい

防災をポジティブに捉え、実践する心の育成を主たるねらいとした。また、生徒、地域、関係機関と一緒に参加する取組を通して、以下の機会の創出をめざした。

- 学校、保護者、地域の防災意識を高めること。
- 保護者と地域、関係機関と一緒に活動することで、連携・協働の機会を創出すること。
- 生徒も一緒に企画者として考え活動することにより主体性を醸成すること。

## 2 概要

### (1) 企画・運営体制

- ・本企画は、美東中学校のそだちプロジェクト(生徒・教職員・学校運営協議会委員)がゼロから企画・準備・運営を実施した。企画・推進チームには、そだちプロジェクト教員に加え、教育魅力化推進員、公設塾minetoスタッフ、学校運営協議会長、育友会長、そだちプロジェクトメンバーの生徒3名らが参加した。また、美祢市総務企画部 総務課 防災危機管理室、美祢市消防本部の協力を得て実施された。



生徒・教職員・学運協・消防本部による「全員プロジェクト会議」

### (2) 実施状況

- ・【イベント名】「美東でまなぼうさい」(防災参観日)
- ・【実施場所】美東中学校(グラウンド、体育館、各教室、渡り廊下等)
- ・【参加者数】美東中生徒83名、保護者50名、小学生20名、地域住民10名

### (3) 実施内容

- ・【講義】開会后、美祢市消防本部より、美祢市・美東町で想定される災害から命を守るための講演が行われた。また、美祢市や美東の災害リスク、防災について、各地域の避難所や避難ルートの確認なども含めて講義が実施された。



- ・【ブース体験】参加者は小・中学生、保護者、地域の方が一緒になった12グループに分かれて体験を行った。6種類の内容をそれぞれ2個ずつ、計12個のブースが設けられ、時間を区切りグループごとに全ブースを回った(1ブースあたり15分間の体験)。ブースでは、チームごとの競争性を取り入れ、点数が設けられた。ブース内容は以下の通りである。
  - 防災スポーツ: バケツリレー、消火器的当て
  - 避難所体験 : 段ボールベッド組み立て
  - 知識確認 : 防災クイズ
  - 緊急時対応 : 大声対決(助けを求める訓練)、毛布担架教室



「大声対決」



「バケツリレー」



「毛布担架教室」



「消火器的当て」

- ・【防災スポーツ（物資運搬リレー）】ブース体験終了後、全員が体育館に集まり、物資運搬リレーが実施された。生徒チーム、保護者・地域チームに分かれて対決し、「避難所で10人が3日間生活するのに必要な物資を集めてくる」ことを目標に取り組んだ。このリレーでは、物資名が示された段ボールを協力して運搬し、効率よく限られたスペースに収納する体験ができた。また、単にスピードを競うだけでなく、余剰品や必要のない物資を集めた場合は減点となる仕組みが導入され、判断力も必要とされた。



### 3 成果と今後の課題等

本実践により、当初のねらいである、生徒、保護者、地域が協働で学校安全について学ぶ機会が創出された。具体的な成果として次のことが考えられる。

- 参加者は、各ブースでの体験を通じて、災害時に必要な知識やとるべき行動等について考え、学ぶことができた。特に、バケツリレーや消火器的当てなどの防災スポーツでは、緊急時に役立つ動きを楽しみながら実践できた。
- 物資運搬リレーでは、生徒、保護者、地域がチームを組んで対決する中で、物資を運搬するだけでなく、「避難所で何が必要か」を判断する力が求められた（不要な物資の収集による減点制度）。これは、避難所運営に必要な効率性や判断力を体験的に学ぶ機会となった。
- そだちプロジェクトの生徒メンバーを中心に、教職員、地域住民（学校運営協議会長、育友会長など）が連携し、企画、準備、運営をゼロから担い、「子ども、保護者、地域が一緒になって活動する機会」を創出するという目標が達成された。

課題として考えられるのは、この取組が単発的なイベントに終わらず、持続的な防災教育に繋げるための評価と計画の策定である。そのために、体験後の参加者のアンケート結果を分析し、防災知識や実践力に関して具体的にどのような「成果」を得て、「課題」として何を残したのかを、次年度以降の企画に反映させることが必要である。



実施後に、全校生徒、参加者、関係機関等、全員で撮った記念写真

取組名	AEDを使用した救急救命講習会		
特徴	緊急の場合に落ち着いて対応できる能力を育成する。		
学校名	山陽小野田市立高千帆中学校	期日	令和7年6月 4日（水曜日） 令和7年6月19日（木曜日）

### 1 ねらい

- 若いうちから心肺蘇生やAEDの正しい使い方を習得し、緊急時に命を救う行動ができる人を育成する。
- 大切な人の命を守る「命のバトン」をつなぐ役割を担うとともに、知識だけではなく、実践を通して「自分にもできる」という自信を培う。

### 2 概要

#### 山陽小野田消防局による講義及び実技指導

- ・ 令和7年6月4日（水曜日）、令和7年6月19日（木曜日）に2学年を対象に実施。救急応急手当は2学年の保健分野「傷害の防止」の分野で取り扱われている。教科書の知識だけではなく、実践力を身に付けさせたいという思いから実施に至った。



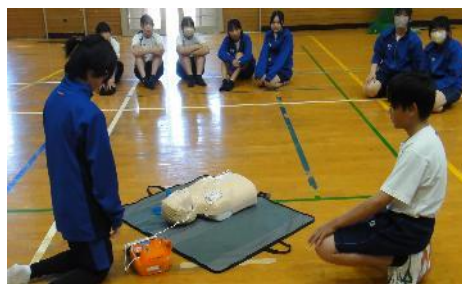
消防署署員の講義



署員による心肺蘇生指導



心肺蘇生法の実習



AEDの実習



心肺蘇生法とAEDの使用（役割分担）

### 3 成果と今後の課題等

- 訓練を通じて、心停止の状況に遭遇した際に、ためらわず胸骨圧迫やAEDの使用ができるようになる。また、模擬訓練を体験することで、実際の状況でも冷静に対応できる可能性が高まる。
- 研修で役割分担を学ぶことで、いざという時に周囲の生徒や大人と協力して救命活動を行うことができる。AEDは自動音声ガイダンスによって操作方法を教えてくれるため、研修経験があれば迷わず使用することができる。
- 若い年齢からAEDや心肺蘇生について学ぶことは、将来的に一般市民による救命行動の増加につながることを期待できる。
- 一度講習を受けても、時間の経過とともに知識や手順を忘れてしまう可能性があるため、定期的な講習が必要である。

取組名	生徒が考える勝山中校区のKYT学習		
特徴	勝山中校区の水害による危険箇所はここです！ 自宅火災の要因と、火災につながる危険な状況を改善しよう！		
学校名	下関市立勝山中中学校	期日	令和7年 6月24日（火曜日） 令和7年11月21日（金曜日）

## 1 ねらい

- 生徒が災害の危険性について考え、主体的に対策ができるようになる。
- 生徒目線の危険箇所を全校生徒で共有し、「自助・共助」につなげる態度を養う。

## 2 概要

### (1)大雨による浸水想定避難訓練と関連したKYT学習 6月24日実施

- 本校の土砂災害警戒区域と避難経路の確認。
  - 生徒の気づきによる勝山中校区のKYT学習。
    - 事前に環境委員会+有志に説明する。
    - 生徒が、タブレットで自宅周辺および通学路を撮影し、どのように危険になるかを考える。
    - 生徒が、ロイロノートで危険箇所のスライドを作成する。
    - 避難訓練後に、生徒が、スライドを発表し、全校生徒で共有する。
- ※ スライドを印刷し、廊下に掲示。



★「〇〇の場所は、駐車場の入口の側溝のふたの上を歩くと、滑りやすく危ないです。」

★「〇〇は、側溝のふたが無く、増水したら、道路と側溝の境目が分かりません」など

みなさん、危険を予測して、「自分の身は自分で守る『自助』」、「自分たちの地域は自分たちで守る『共助』」をしていきましょう。

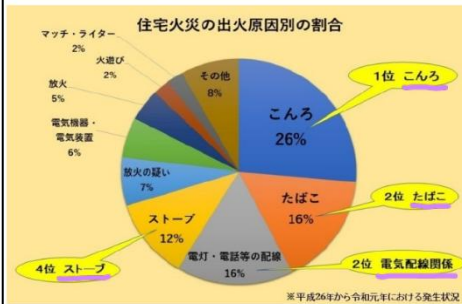
(2) 火災による避難訓練と関連したKYT学習

11月21日実施

- ① 煙の危険性と煙を避けながら避難する方法の確認。
  - ② 動画による防火シャッター、防火扉等の火災対策装置の意味と大切さを確認。
  - ③ 生徒の調査による、自宅火災の要因および対応策を、避難訓練後に発表する。
    - ア 環境委員長が、火災の要因の上位をグラフに作成し、説明する。
    - イ 各項目（ガスコンロ、家電製品、たこ足配線、モバイルバッテリー等）を、環境委員が自宅の様子を撮影し、スライドを作成し、発表する。
- ※ 事前の準備については、上記「1学期」と同様。

### 火災の原因

記録者 3年



特に注意が必要なのは  
こんろです。  
みなさんにとって身近  
なものであり危険もの  
です。  
火事にならないよう  
に心がけましょう。

火は私たちの生活を支える便利なものですが、使い方を誤るととても危険なので使い方を気をつけましょう。

### 火災予測

記録者 1年

ここが危ない！  
コンロの近くに可燃物を置く事！



危険な理由はコンロの近くに燃えやすいものを置いているからです。  
これは火災の原因になりえます。  
ふきん、紙パック、ペットボトル、などを置いておくと燃えやすいので気をつけましょう。

### 火災予測

記録者 2年

使い方は大丈夫？モバイル充電器の使い方



最近ニュースでモバイル充電器による火災が多発しています。

**対策**

- ① 充電中は必ず目を離さず、就寝中や外出中は充電をしない。
- ② 布団やカーペットの上などに充電をせず硬い台の上で充電をする事。
- ③ 涼しく乾燥した場所に保管し、高温となる場所には置かない事。

### 火災予測

記録者 3年

### 破れた充電コードの使用



破れた充電器の使用は感電、発火、デバイスの故障など重大な事故につながる可能性があるため、絶対に避けるべきです。



### 3 成果と今後の課題等

生徒が主体的に危険箇所を調べ、全校生徒の前で発表することで、生徒本人の気づきを共有し、災害の危険性や対応策について深く理解することができた。生徒の感想の多くで、災害を“より自分事”として捉えており、効果的な取組となった。

取組名	想定演習を通して危機管理意識の向上を図る		
特徴	想定演習を行うことで、教職員の危機管理意識を向上させるとともに、緊急対応時の課題を発見し、改善を行う。		
学校名	萩市立萩東中学校	期日	令和7年 8月 4日（月曜日） 令和7年10月14日（火曜日）

### 1 ねらい

- 緊急時対応に対する理解を深め、迅速かつ組織的な対応が行えるようになる。
- 想定演習を行うことで、危機管理意識を高める。
- 想定演習を行うことで、緊急対応時の課題を把握し改善を行うとともに、緊急時対応の教職員の共通理解を図る。

### 2 概要

- (1) 授業中、生徒がアレルギー反応により倒れ頭部を打撲するという事案が起こったとする想定演習
- ・ 令和7年8月4日（月曜日）に萩市消防署から3名の消防士に来校していただき実施した。
  - ・ 想定内容「エピペンを処方されている3年4組男子生徒が5校時の学活の授業の際に、咳をしていた。大丈夫か確認したところ「大丈夫」と答えたので授業を続けた。しばらくすると、周囲の生徒が「苦しそう」と心配し始めた。Sくんは突然意識を失い、床に倒れる。
  - ・ 役割 [授業者・アレルギー疾患生徒・その他生徒・隣教室授業者・隣教室生徒・保護者・教頭・職員室にいる教諭・ビデオ撮影]
  - ・ 想定演習実施後、消防士の方からの講評。



初期対応の様子



緊急通報の様子



講評時の様子

- (2) 校区内で凶悪な犯罪が起こったと想定した引き渡し訓練

- ・ 令和7年10月14日（火曜日）に全校一斉で実施した。
- ・ 校門付近での渋滞緩和のため、引き渡し時間を学年で30分程度ずらして行った。



受付の様子



引き渡しの様子



待機中の様子

### 3 成果と今後の課題等

- 想定演習を行うことで、教職員一人ひとりが主体的に考え、行動することができた。その中で発見された課題やそれをどのように改善していくのかを、より緊張感をもって教職員が協議することができた。
- 「来年度も同じ想定内容で行い、実際に課題が改善されているかの評価が必要である。

取組名	地域や保護者と連携した防災のための環境整備活動		
特徴	学校、家庭、地域が一体となり協働活動を行い、防災への意識を高めた。		
学校名	萩市立萩西中学校	期日	令和7年8月23日（土曜日）

### 1 ねらい

- 毎年、大雨時に冠水する学校周辺の側溝を整備し、災害発生のリスクを下げる。
- 学校、家庭、地域が一体となり協働活動を行うことによって、防災への意識を高める機会とする。

### 2 概要

#### (1) 準備

- ・ PTA総務部による準備委員会3回実施。（冠水箇所の現地調査を含む）
- ・ 地域へ協力の呼びかけ。（学校運営協議会、町内会、おもだか会（元PTA会員有志））
- ・ 萩市環境衛生課からグレーチング等の作業用具を借用。

#### (2) 実施

- ・ 本校の東西南北を囲んでいる白壁付近を中心に側溝整備作業を実施。
- ・ 活動時間は午前8時15分から午前9時30分（休憩時間20分を含む）
- ・ 溝に溜まっている土砂は土嚢袋に入れ、今後の防災活動や治水の現場に役立てる。
- ・ 溝蓋が大変重いので、生徒だけでは困難な作業であったが、地域の応援団の助言や助力によって、ケガもなく安全に活動を行うことができた。



西門付近（左：萩高校、右：萩西中）



南東門付近側溝



北西側



土嚢袋

### 3 成果と今後の課題等

- 実際に、今年の大雨時に冠水することが、ほとんど無くなり、登下校時の安全が以前より確保された。
- 参加者全員が、大雨時における学校周辺の危険箇所を知り、その災害リスクを下げる活動に携わる経験ができた。結果的に地域貢献にもつながる貴重な時間になった。
- 夏休み中の土曜日開催であったが、保護者や地域の方が90名以上参加していた。この経験を通じて、以前より皆さんの防災意識が高まったと感じる。
- 地域の方と協働活動していく中で、改めて「世界遺産の中にある学校」としての誇りや愛着を深め、地域PRIDEの醸成にもつながる有意義な活動になった。

取組名	専門家等と連携した防災授業		
特徴	専門家を招聘して、保護者・教職員・生徒がともに防災について考えた、		
学校名	萩市立田万川中学校	期日	令和7年9月10日（水曜日）

### 1 ねらい

- 災害とは何か、備えとは何かについて学び、災害発生時の行動や災害発生に備えるための準備について考える。
- 生徒自身の災害に対する意識の向上をはかるとともに、「自助・共助・公助」の力を身に付け、安全に関する生徒の資質能力の向上を図る。
- 防災グッズ等の見学を行うことで、災害発生時における準備物の知識を高めるとともに、家庭での防災に関する話し合いの一助とする。

### 2 概要 講義

#### (1) イントロダクション

- ・自己紹介
- ・気象庁の仕事の紹介

#### (2) レクチャー

- ・豪雨、河川氾濫、洪水、土石流、土砂崩れの動画視聴
- ・地域の災害リスクを知る
  - ① ハザードマップ
  - ② 田万川地域の大雨災害
- ・身を守るための知識をもつ
  - ① 防災気象情報について
  - ② 情報入手の仕方

#### (3) ワークショップ（保護者、教員も一緒に）

- ・活動の役割分担
- ・居住地域の状況の確認
- ・災害発生状況の確認
- ・災害発生が予測される日の前日の行動について
- ・災害発生当日の行動について



講義



ワークショップ



発表

### 3 成果と今後の課題等

- ワークショップを行うことで、災害発生時において、その行動や優先順位の付け方に様々な考え方があることを知ることができた。
- 本校の地域が過去に受けた大雨災害について取り上げていただくこと、災害が身近に起こる可能性があることを意識付けることができた。
- 保護者や教員と取り組むことで、より深く考えることができた。

取組名	日置地区災害避難訓練		
特徴	地震発生を想定、災害に対応するため、保・小・中・市・消防・警察・教育委員会が連携した避難訓練を実施した。		
学校名	長門市立日置中学校	期日	令和7年10月1日（水曜日）

## 1 ねらい

- 地震発生を想定し、日置地区保・小・中学校2園3校と長門市の防災体制の連携強化を図るとともに、園児児童生徒の防災意識の高揚を図る。

## 2 概要

### (1) 避難訓練

- ・ 日本海沖を震源とするM7.5の地震が発生し、長門市では最大震度5強の揺れが発生したことを想定した。
- ・ 緊急放送で訓練を知らせ、揺れが収まるまで机の下に隠れて、机の脚を対角線に持ち身の安全を確保した。揺れが収まったことを放送で知らせ、安全を確認しながらグラウンドに避難した。
- ・ 今回の訓練は、長門市役所日置支所の統括の下での実施であり、日置小学校の児童・教職員との合同避難訓練であった。避難場所の日置中学校グラウンドに中学生と小学生が避難集合した。避難完了後、人員確認を行い、教育委員会へ避難状況を連絡した。



避難の様子



消防車による放水



地震・水害・津波のVR体験

### (2) 防災研修（講話・体験）

避難後は、長門市西消防署職員から避難の様子について講評していただいた。また、間近で見ることのない消防車からの放水を見学した。その後、体育館に移動して、長門市防災危機管理課職員から避難時の対応について、クイズ形式で講話をしていただいた。小学生はここまでで帰校し、引き続いて、中学生は地震・水害のVR体験をした。

## 3 成果と今後の課題等

今年度も、日置みすゞ学園を中心とした日置地区のコミュニティで行われる災害避難訓練を実施した。地震を想定し、避難した後、日置支所、消防署、教育委員会と連携し研修会を行うことで、生徒の防災意識と自分の身は自分で守るという意識の高まりを感じることができた。

市防災危機管理課職員の講話の中で、「自助・公助・共助」について触れると、多くの小中学生が知っていると答えていた。これまでの防災教育の成果がうかがえた。地震・水害のVR体験をした生徒は、とても現実的で想像以上に恐怖を感じたと感想を述べた。昨年までは、中学校単独で訓練を実施していたが、今年は小学校と合同で訓練を行った。いざというとき、中学生が小学生を避難誘導できるように、中学生に災害時の対応力を身につけさせたいと思う。このような実効性のある避難誘導を訓練に取り入れていきたいと考える。

取組名	「自分たちの故郷は自分たちで守る！」（地域と連携した防災教育） ～地域防災の主体者となる生徒の育成～		
特徴	生徒たちが地域の一員として防災について主体的に学び、その成果を発信する		
学校名	阿武町立阿武中学校	期日	令和7年6月30日（月曜日） 令和7年8月21日（木曜日） 令和7年8月22日（金曜日） 令和7年10月5日（土曜日） 令和7年10月25日（土曜日）

## 1 ねらい

- 防災学習を通して、子どもと大人が共に学び合い、協働して安心・安全な地域の実現をめざす。
- 地域住民の一員として、阿武町の災害特性や危険性を理解し、災害発生時およびその後に、身近な人々や地域の安全に役立つ行動ができる生徒を育成する。
- 過去の災害経験や高齢化が進む地域の実態を踏まえ、生徒が「きづく・きめる・かかわる・やりぬく」力を身につけ、地域に学び、地域とともに考え、提案・発信する活動を通して実践的な力を育てる。
- 生徒が「防災を伝える・発信する・支える」主体として行動することで、家庭や地域社会全体の防災意識向上に寄与する。
- 地域住民とともに課題解決に取り組むことで、防災における危機管理を一体的に進める地域づくりに貢献する。

## 2 概要

### (1) 防災意識の基盤づくり（インプット）

- ・ 専門家による防災出前授業を6月30日（月曜日）に実施した。災害の基礎知識や土砂災害のメカニズムについて実験を交えて学び、ハザードマップ演習も行った。家庭で避難場所を話し合う宿題を課すことで、生徒が地域の危険箇所を認識し、家族との連携を深める機会となった。



災害の基礎知識

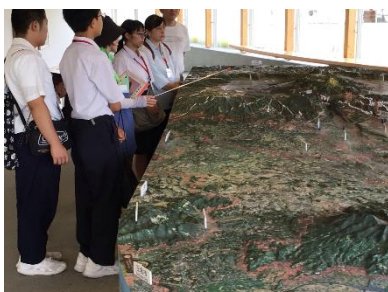


土砂災害メカニズム実験



ハザードマップ演習

- ・ 8月21日（木曜日）から22日（金曜日）には、3年生の生徒会執行部4名が熊本地震の被災地視察研修に参加した。震災ミュージアムKIOKUや阿蘇火山博物館を訪れ、被災関係者との交流を通して防災の重要性を実感した。この学びを全校生徒へ報告し、学校全体の防災意識を高める契機となった。



震災ミュージアム見学



被災地見学



被災地見学

- ・ 町役場の総務課との連携により、阿武町の現状や地域課題を学ぶ機会を設けた。また、防災啓発グッズの制作にも取り組み、地域の特性に応じた防災意識の定着を図った。

## (2) 地域との協働による探究活動（実践・アウトプット準備）

- 10月5日（日曜日）の地区防災訓練に全校で参加した。見学ではなく、消防団と土嚢づくりを行ったり、避難所テントの設営や片付けを担ったり、「婦人会」や役場と協働して炊き出しを手伝うなど、運営側の一員として主体的に参加した。生徒に「地域住民」としての自覚が芽生え、共助の精神を体得する場となった。



土嚢づくり



避難所テント設営



炊き出しの手伝い

- 10月25日（土曜日）の文化祭に向け、希望選択制のグループに分かれ探究活動を行った。
  - ① 防災調査（地域の防災に関わる聞き取り）
  - ② 地域住民も交えた防災劇の企画・準備
  - ③ 防災グッズ製作や避難所で必要な物品の研究
  - ④ 多世代が登場するパネルディスカッションの企画
  - ⑤ 避難所展示コーナーの準備

## (3) 学習成果の集大成と地域への発信（共有・還元）

- 10月25日（土曜日）に「阿武中学校文化祭 知る・備える・守る～自然災害と共に未来を生きていくために～」を開催した。「自分たちの故郷は自分たちで守る」という強い思いのもと、生徒が地域へ向けて学びの成果を発信する一日となった。
- 生徒の学習発表では、防災調査の発表やVRゴーグルを使った臨場感ある体験、防災劇の発表など、多様な活動を行った。地域住民や行政職員、防災士を招き、町民とのパネルディスカッションや避難所体験ワークショップも開催した。生徒が設営した避難所展示には多数の住民が訪れ、学校と地域が一体となって防災について考える場となった。
- 学校ホームページや町広報誌を通して学習成果を継続的に発信し、地域全体の防災意識向上に寄与している。



文化祭会場の様子



パネルディスカッション



VR ゴーグル災害体験

## 3 成果と今後の課題等

これらの取組を通して、生徒一人ひとりが防災に対する問題意識を高めるとともに、「自分たちの故郷は自分たちで守る」という強い当事者意識を身につけることができた。特に、防災訓練や文化祭において、生徒が「学ぶ側」から「地域防災の主体者」へと役割を転換したことは、実際の避難・支援の場面を想定した具体的な行動力の育成につながった。

また、探究活動で得た知識や体験を防災劇・調査発表・議論などの多様な形で発信したことで、家庭や地域にも学びが広がり、地域全体の防災力の向上に寄与した。文化祭や各種行事を通じて住民との信頼関係が深まり、防災を軸とした新たな地域連携が生まれた点も大きな成果である。

一方で、これらの活動を一過性の経験で終わらせないために、次年度以降も継続的に取組を発展させ、生徒が将来の地域リーダー・支援者として育つための土台づくりをしていく。

また、学びの成果を学校内だけでなく、町の広報誌やホームページなどを活用してより広く発信し、「誰一人取り残さない防災」の実現に向けた取組へと地域全体で進化させていくことが求められる。

今後も、家庭・学校・地域が一体となり、安心・安全なまちづくりをめざした教育活動を継続していく。

取組名	事前に日時等を告げない不審者対応避難訓練		
特徴	児童生徒や教職員が、予測できない状況下で、自ら考え、主体的に安全確保と避難行動を行う実践的な能力を育成することができる。		
学校名	防府市立富海小中学校	期日	令和7年6月27日（金曜日）

## 1 ねらい

- 校地内に不審者が侵入した場合の安全な避難行動について児童生徒に理解させる。
- 組織的且つ迅速な対応ができるように教職員の危機管理意識を高める。

## 2 概要

### (1) 事前指導

- ・ 児童生徒に、いつ、どこで、どう避難するかは伝えないようにした。不審者対応の避難訓練があることを伝え、ワークシートを使って基本的な対応について考えさせた。
- ・ 避難訓練の詳細は、管理職、教務主任、生徒指導主任、事務室にいる職員のみが把握しておくことにした。基本的な対応について、職員会議で周知した。

### (2) 不審者対応避難訓練

- ・ 令和7年6月27日（金曜日）に、小学部と中学部が合同で実施した。
- ・ 不審者に気付いた教職員が声を掛け、緊急事態と判断し、職員室に不審者侵入を速やかに連絡した。
- ・ 職員室で連絡を受けた教職員が、管理職に報告し、校内放送による児童生徒の安全確保と不審者対応、110番通報の指示を出した。
- ・ 担任は、近くの児童生徒を不審者から遠ざけ、教室の出入口・窓を閉め、施錠できない場合は机や椅子でバリケードを設置するなど、徹底した籠城と安全確保に努めた。
- ・ 不審者対応役の教職員は、さすまた等を持ち、不審者を刺激しないよう距離を置いて対応に向かった。
- ・ 児童生徒は、放送を聴き、不審者からなるべく遠くに離れて自分の身を守るようにした。
- ・ 誘導役の教職員が、到着した警察を現場まで速やかに誘導した。
- ・ 警察の指導のもと、教職員が協力し不審者を取り押さえた。
- ・ 現場から職員室に不審者確保の連絡が入り、校長へ報告した。
- ・ 少年安全サポーター、スクールガードリーダー、駐在所長から、指導を受けた。



不審者確保の様子



指導者の方々



スクールガードリーダーによる講話

## 3 成果と今後の課題等

- 教職員・児童生徒ともに、事前の予告がない状況でも、放送や指示を聴き、迅速かつ主体的に身の安全を確保する初期行動を確認できた点は成果である。
- 今後は、来校者に積極的に声掛けをするとともに、教職員の役割分担の明確化を図ることで、訓練で確認された行動を実効性の高い対応にしていく必要がある。

取組名	消火栓の放水訓練を取り入れた火災訓練		
特徴	教職員による放水訓練を取り入れ、教職員の消防設備の使用に慣れ、防災の意識を高めた。		
学校名	萩市立三見小中学校	期日	令和7年9月18日（木曜日）

### 1 ねらい

- 校内で発生した火災に対して、的確な状況判断により安全かつ迅速に避難する力を養う。
- 消火器、消火栓の使い方を体験し、初期消火の際の正しい知識を身に付ける。

### 2 概要

#### (1) 日時を告げない避難訓練

- ・ 令和7年9月18日（木曜日）に避難訓練を実施。日時を告げずに、萩市消防署の方が発煙装置によって煙を発生させ、訓練を開始する。実際の火災を想定して、教職員が火災報知器を押し、職員室にいる教員は初期対応と消防署への連絡と授業者は児童生徒の避難誘導を行った。



職員室に火災を知らせる教職



児童生徒の避難の様子

#### (2) 消火栓の放水訓練

- ・ 避難訓練後、萩市消防署の方による消火栓の取り扱い方法や、放水時の注意事項の説明があった。
- ・ 消火栓のホースを校舎外まで伸ばし署員の方の指導の下、教職員による放水訓練を行った。



消防署員の方の説明



児童生徒も一緒に説明を聞く



放水の様子

### 3 成果と今後の課題等

- 日時を告げない避難訓練であったが、児童生徒は落ち着いて避難行動を取ることができた。
- 放水訓練については、萩市消防署の方から丁寧に説明等をしていただいた。教職員からも「消火栓はなかなか使うことが無いので良い機会となった。」などの意見があり、教職員が実際に消火設備を確認、使用することができる貴重な体験となった。

取組名	大規模地震想定緊急時二次避難体験		
特徴	大規模地震による津波を想定した避難訓練（3月11日に実施）		
学校名	萩市立大島小中学校	期日	令和7年3月11日（火曜日）

## 1 ねらい

大規模地震発生時に津波警報が発令された状況を想定し、高台への二次避難を体験することにより、今後想定される南海トラフ地震等の大規模地震が発生したときに、命を守る行動をとれるようになる。

## 2 概要

### (1) 「3.11教訓伝承・被災地視察研修」の復伝講演会

- 東日本大震災の被災地で行われた視察研修に参加した中学部教頭による復伝講演会を事前に行った。



### (2) 緊急地震速報訓練

- 地震が発生したことを全校に放送で伝え、一次避難のためにグラウンドに集合した。停電していることを想定して、屋外ではハンドマイクを使って指示を出した。

### (3) 津波警報発令による二次避難訓練

- 地震後に津波が発生したことを想定し、二次避難場所として、学校よりもさらに数十メートル標高の高い場所を指定した。児童生徒は、学校から約1.5km離れたいろは坂の上をめざして移動した。

### (4) 大島小中3.11伝承のつどい

- 東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方の方向に体を向け、1分間の黙祷を行った。その後、中学部教頭が被災地で実際に聞いた避難時の体験を児童生徒に語った。



津波を想定し、より高い所へ避難    1.5 km離れた二次避難場所へ移動    東北地方の方向に向かって黙祷

## 3 成果と今後の課題等

本校は離島にあり、児童生徒は普段から海を身近に感じながら生活しているが、地震による津波を想定した避難訓練を実施したのは初めてであった。訓練に先立って、中学部教頭が被災地で研修した内容を児童生徒に伝えたことにより、災害の恐ろしさや命の尊さについてより深く考えることができた。また、東日本大震災の発生日である3月11日に訓練を実施したことで、児童生徒は東北地方の被災地のことも思い浮かべながら真剣に取り組んでいた。

今後も、3月11日かそれに近い日に地震や津波を想定した避難訓練を実施したいと考えている。地震や津波に限らず、いつ起こるか分からない災害に備え、KYT学習や職員研修にも力を入れることで、「自分の命は自分で守る」という意識を高めていきたい。

取組名	地域と連携した島内一斉避難訓練		
特徴	地域連携の防災訓練を行うことで、防災意識の高揚と防災関係の連携強化を図った。		
学校名	萩市立見島小中学校	期日	令和7年10月25日（土曜日）

### 1 ねらい

- 地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動を身に付ける。（自助）
- 自分の安全を確保した上で、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を育成する。（共助）
- 児童生徒の命を守るために、各自の役割を確認し、適切な行動をとることができるようにする。

### 2 概要

#### (1) 事前指導

- ① 地震について（30分～35分）  
「学校安全に関する危険予測学習（KYT）資料」を使用。
- ② 津波について（15分）  
気象庁 津波防災啓発ビデオ「津波から逃げる」（アニメ）視聴後、津波に関する避難時に必要なポイントを確認。「津波から逃げる」（クイズ）も利用。  
※地震や津波について正しい認識をもち、地震や津波が起こった時、どのような行動を取らなければならないかを確認した。

事前指導の様子



#### (2) 地震・津波に関する島内一斉避難訓練及び事後指導

- ・ 令和7年10月25日（土曜日）に見島島内全体で、地震・津波を想定した見島総合防災訓練を実施した。地震発生後のグラウンドへの一次避難、津波発生による高台への二次避難を行った。二次避難においては見島保育園と連携して避難を行った。避難後、見島支所や地域の消防団が行った消火訓練、防災知識の向上のための講話やクイズに参加した。また、航空自衛隊見島分屯基地が中心となり行った避難を想定した炊き出し訓練にも参加した。
- ・ 避難訓練終了後、事後指導として避難訓練の振り返りを行った。

避難の様子



消火訓練の様



### 3 成果と今後の課題等

- 島内全体で行う避難訓練は、とても意義深く、児童生徒が島内で協力しながら避難することの大切さを学ぶことができた。また、炊き出し訓練などを通して、児童生徒の周囲の人や社会の安全に貢献する共助の意識が高まったように感じた。
- 事前指導や事後指導をしっかり行ったことで地震や津波の時の対応の仕方がよく理解できたように感じた。

取組名	自転車交通安全教育		
特徴	スタントパーソンが危険な自転車走行に伴う交通事故場面を再現することで、生徒が事故の危険性を疑似体験する。		
学校名	山口県立岩国総合高等学校	期日	令和7年11月7日（金曜日）

## 1 ねらい

山口県では、2024年4月からすべての県立学校で自転車通学中の生徒に対してヘルメットの着用が義務化された。この措置は自転車通学中、生徒の安全を確保することを目的としている。

- 警察署職員から交通事故が起きやすい時間帯や場所および自転車事故の現状を知ることにより、事故に遭わないための交通マナーを学ぶ。
- スタントパーソンが交通事故場面を再現することで、自転車の利用頻度が高い高校生が事故の危険性について疑似体験する。また、ヘルメットの着用が命を守ることに繋がることを認識させる。
- 自転車運転中は交通被害者にも加害者にも成り得ることを理解させる。

## 2 概要

(1) 県内、市内交通情勢の説明（岩国警察署交通課）

(2) 自転車乗車中の違反（交通安全学習館）



・交通情勢の説明



・ながらスマホ違反



・信号無視違反



・自転車及び歩行者優先道路標識



・歩行者と自転車の接触事故

(3) 交通事故再現（スタント会社）

- ・狭い路地から一時停止しなかった自転車が車道に飛び出し、車との接触事故。
- ・この他にも大型車両左折時の自転車巻き込み事故等も再現された。



## 3 成果と今後の課題等

終了後は生徒に振り返りシートを記入させた。また、県教委、校長、本校学校安全体育課長がこの度の取り組みについて意見交換した。意見の中には、スタントパーソンによる交通事故現場を再現することで、生徒は交通事故の悲惨さや自転車の安全な乗り方について頭に焼き付けられたという意見があった。近隣の高校でも自転車違反を繰り返す生徒がおり、このような交通教室に取り組んでもらいたいとも話された。そして、保護者にも是非、この取り組みについて伝えてほしいという意見が上がった。

取組名	警察と連携した犯罪被害・交通事故防止活動		
特徴	動画を制作し、自主防犯・交通事故防止の意識を高めた		
学校名	山口県立高森みどり中学校 山口県立高森高等学校	期日	令和7年9月17日（水曜日）

### 1 ねらい

- 防犯・交通安全に関する啓発動画の制作、視聴を通じて、生活の安全に対する認識を深める。

### 2 概要

#### (1) 警察と連携した啓発動画の制作

- ・7月22日（火曜日）に山口県警察本部、生活安全部人身安全・少年課、交通部交通企画課の協力のもと、中高の生徒会執行部が校外で撮影を行い、啓発動画の制作を行った。動画の台本は、6月に県警と生徒会執行部が話し合いながら完成させた。



防犯の撮影



交通安全の撮影



メッセージの撮影

#### (2) 防犯・交通安全教室（中高合同で実施）

- ・撮影した動画をもとに、生徒会執行部がVR機器を使って、啓発活動を行った。交通ルールやオンラインカジノなど、実際に起こりうる危険な場面を共有し、生徒にクイズ形式で問いかけながら考えさせた。最後に警察官から講話をいただいた。



VR体験



生徒への問いかけ



警察官による講話

#### (3) 山口県警察学生ボランティア活動報告会へ参加

- ・10月13日（月曜日）、KDDI維新ホールで、4名が活動報告を行った。下関市立大学生の報告も聴いて、啓発活動の大切さを再確認した。



活動内容の説明



報告会の様子



啓発についての協議

### 3 成果と今後の課題等

- 生徒が実際に登下校で利用する道路で撮影したため、身近に起こりそうな場面をイメージしやすく、注意しなければならないことを理解できた。また、生徒自身による啓発は、他の生徒にとっても新鮮で興味深く、防犯や交通安全の意識を高めることができた。
- 一人ひとりが犯罪や交通事故に遭わないように、自分事として普段から注意できるとよい。

取組名	教職員を対象にしたアレルギー疾患及び救急蘇生法等に関する研修		
特徴	エピペン®の実習を交えたアレルギー疾患の対応やAEDを併用した救急講習会を実施し、スポーツ大会前に救急対応の知識と意識を高めた。		
学校名	山口県立岩国商業高等学校	期日	令和7年 4月 4日（金曜日） 令和7年10月16日（木曜日）

## 1 ねらい

- アレルギー疾患の知識やエピペン®を用いた対応方法を専門家から学ぶことで、知識と技術の向上を図る。
- AEDを併用した心肺蘇生法の知識・技術を毎年確認し、スポーツ大会前に教職員の危機管理意識を高め、生徒の安全をチームで守るという意識と資質の向上を図る。

## 2 概要

### (1) 要配慮生徒の情報共有とアレルギーに関する研修の実施

- ・職員会議時に、配慮を要する生徒の情報共有とエピペン®の保管場所、緊急時の対応方法を共有した。
- ・アレルギー疾患に関する症状や対応方法等をパワーポイントで説明したのち、練習用のエピペントレーナーを使用しエピペン®の実技演習を全教職員が実施した。

### (2) AEDを併用した救急蘇生法研修会の開催

- ・消防署職員2名を招聘し、教職員を対象にエピペン®の使用を含めたアレルギー疾患に関する実技研修とAEDを併用した救急蘇生法についての実技研修を実施した。
- ・アレルギー疾患については、アレルギー症状や原因、アナフィラキシーショック、エピペン®の使い方や誤って使用した場合の対処方法等も説明された。
- ・3グループに分かれ、傷病者の発見から救急隊に引き継ぐまでの救命処置の流れを、実践を交えて教えていただいた。



## 3 成果と今後の課題等

- 年度初めに全教職員に生徒の情報を共有し、エピペントレーナーを使用することで、緊急時にすべての教職員が対応できる体制を整えることができた。
- 消防署職員に積極的に質問する様子が見られ、参加者の新たな学びに繋がった。
- 救急車が到着するまでに大体7～9分程度かかるため、一人2分間胸骨圧迫を実施する体験や圧迫中に入れ替わるタイミングと方法を学んだ。
- 終始和やかな雰囲気で行うことができ、チーム力を高めることができた。
- 今後は、ロールプレイング法を用いる等、学校現場で想定されるシチュエーションに沿った動きのある研修を企画することで、より深い学びに繋がりたい。

取組名	いじめ防止対策講演会及び交通安全運動マスコットの制作・配布		
特徴	いじめ防止及び交通マナーの意識向上を図る		
学校名	山口県立熊毛北高等学校	期日	令和7年5月30日（金曜日） 令和7年9月21日～30日

## 1 ねらい

- 秋の交通安全運動期間中に、熊毛総合支所に来庁された方に配布し、地域における交通安全の意識高揚を図る。
- いじめの発生件数の多くなる時期（6月・11月）に合わせて防止対策として実施する。

## 2 概要

### (1) 交通安全マスコットの配布

- ・家庭科の授業の一環として、1981年から40年以上毎年取り組んでおり、今年度もおよそ40名の生徒が力を合わせて作成した。マスコットは熊毛の地名から「クマ」をモチーフに、黄色や青色、緑色などのカラフルな羊毛フェルトで作られている。



生徒が作成したマスコット



熊毛支所での贈呈式の様子

### (2) いじめ防止対策講演会の実施

- ・「素敵な大人になるために」という演題でいじめについて、山口県民子育て運動岩国地域コーディネーターの松田洋子先生から様々な観点から予防や対処法などについて講演をいただいた。



講演会の様子



松田洋子 先生

## 3 成果と今後の課題等

- 毎年、本校生徒が熊毛総合支所の入口などに立ち、来庁者に配布したり、市民福祉課の窓口で配布を行っており、地域の方から好評をいただいている。しかしながら、県立高校の統廃合により令和9年度で閉校となるため、今後の継続ができなくなる。閉校までの間は、在校生で活動を継続していきたい。
- いじめ防止対策講演を受けて、全国中学・高校生作文コンクールに応募した生徒も若干名いた。残念ながら入選には至らなかったが、いじめ問題にしっかりと向き合っていこうという機運を高めることができたのではないかと考えている。

取組名	生徒・保護者・教職員を対象とした交通安全意識の向上について		
特徴	昨年度今年度の生徒交通事故事例をアニメーションで図示することでイメージしやすくする。		
学校名	山口県立防府商工高等学校	期日	令和7年11月20日（木曜日）

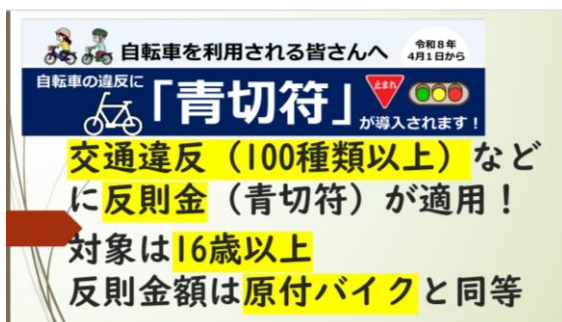
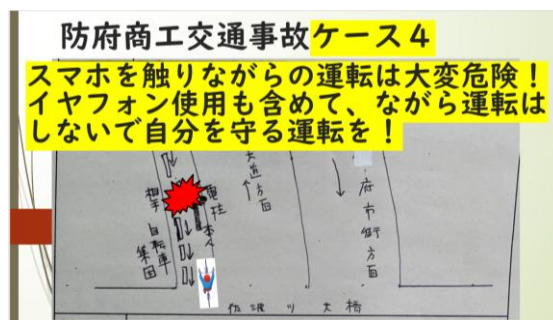
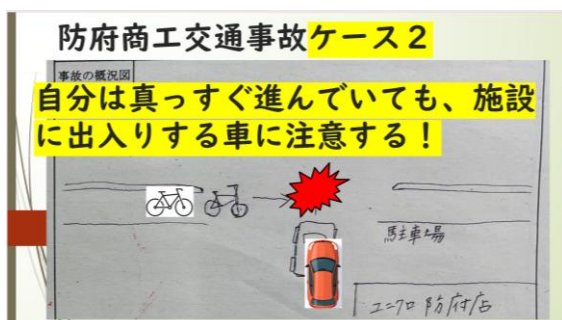
### 1 ねらい

- 本校交通事故の特徴を知り、未然に予防できるような資質を育てる。
- 学校安全委員会の時に説明することにより、保護者も同時に知ってもらい、家庭での連携、協力を図れるようにする。

### 2 概要

#### (1) 学校安全委員会時の交通指導教育

- ・ 令和7年11月20日（木曜日）に学校安全委員会の中で、実施。オンライン配信と講義形式のハイブリッド形式で実施した。
- ・ 2年間分の本校事故情報を場所や時間帯、来校状況などについてアニメーションを利用して説明した。
- ・ 来年4月からの交通法規変更についても説明した。



### 3 成果と今後の課題等

- 生徒だけではなく保護者にも直接お伝えすることで家庭内での交通安全意識を向上させることができた。
- 実際の事故状況をアニメーション付きで行うことで、イメージしやすかった。
- 生徒自ら交通事故危険マップを作成することでさらに意識の高揚につながるのではないかと感じた。

取組名	救急体制の見直しを図る救急法研修会		
特徴	アクションカードを用いたロールプレイを行い、救急体制の改善に繋がった。		
学校名	山口県立山口農業高等学校西市分校	期日	令和7年8月26日（火曜日）

## 1 ねらい

- 昨年度作成した救急アクションカードとフローチャートを用いたロールプレイを行い、改善点を洗い出すことで校内救急体制の見直しを図る。

## 2 概要

### (1) 教職員の救急法研修

#### ・ロールプレイ

昨年度、本校が作成した「救急アクションカード案」及び「救急対応マニュアル案」を用いた研修を行い、豊浦東消防署の救急救命士による指導助言を得てこれらを改良し、本校の救急体制を見直した。

今年度は、この「救急アクションカード」及び「救急対応マニュアル」に即したロールプレイを行い、救急体制の更なる見直しを図った。このロールプレイでは、教職員の役割を分担するとともに、様々なタイプの生徒役（混乱・手伝おうとする等）も配置した。

実際にロールプレイを行うと、教職員からの意見として「有事の際に教職員数の少ない本校では十分な対応ができない可能性がある」、「何かしましうかと声をかけてくれる生徒へどのような指示を出すか」といった意見が挙がった。

#### ・消防署からの指導助言

教職員からの意見に対しては、以下のような指導助言を得た。

- ① AED使用の際、特に他の生徒からの視線は遮るべきであること。  
(教職員は最大限に配慮した上で、生徒が異性であっても救命最優先で対応すること)
- ② 生徒が特に救急現場に居合わせた場合に過換気発作等を起こす可能性があることに留意する必要があること。
- ③ 生徒には、事務室への連絡等の役割を与えると良いのではないかとのこと。

#### ・救急体制の再考

基本的には、救急対応を行うのは教職員であるべきだが、本校のような小規模校において確実な救命を行うために、生徒に協力を求める場面が生じる可能性がある。しかし、救命活動をした場合必ずしも良い結果になるとは限らないことを考慮し、生徒が第一発見者になった場合を除き、生徒への指示は外回りのなものに限定すべきと考えた。

そして、「救急アクションカード」の修正及び生徒へ周知すべき事項について検討し、生徒へ以下の4点について再確認する予定である。

- ・学校で傷病者を発見した際の行動
- ・傷病者が発生した際、教職員から役割を依頼した場合を除いて教室待機すること
- ・校内のAEDの場所
- ・3学期にAEDの使用に関する講習を行うこと

### (2) 生徒の救急法講習

#### ・毎年の積み重ねで根付かせる、救命の知識と実践

毎年3学期に、豊浦東消防署の協力を得て生徒への救急法講習を行う。今年度も例年通り実施し、先述のとおり生徒へ周知した内容を踏まえ、実際にAEDを使用したり胸骨圧迫をしたりする方法について実践的に学ばせる。

## 3 成果と今後の課題等

今後、可能であれば教職員の救急法講習に保健委員を参加させることで、傷病者発生時に生徒はどのような行動すべきか、日常に落とし込んで考えさせたい。

取組名	ともに学び防災の輪を広げる合同保健委員会		
特徴	他高校の保健委員会と一緒に防災について学び、各校で発表		
学校名	山口県立宇部工業高等学校	期日	合同保健委員会 令和7年7月10日(木曜日) 8月6日(水曜日) 校内発表:12月16日(火曜日)

## 1 ねらい

- 保健委員会の活動を通して保健意識の向上を図るとともに、近隣校で活動を共にすることにより、地域の実態を知り、地域と協働できる能力と態度の育成を図る。
- 活動を通じて得た知識を、各学校で生徒が主体となって報告することにより、学校全体の防災意識が高まり、自分ごととして考える機会となることを期待する。

## 2 概要

- ・ 令和7年7月10日(木曜日)に宇部中央高校にて第1回目の合同保健委員会を行った。防災キャンプ支援アドバイザーより「防災とは何か」「防災ボランティア活動」等について学び自分たちに何ができるかをグループになって話し合った。



講話



グループ活動



グループ活動報告

- ・ 令和7年8月6日(水曜日)、宇部中央高校にて第2回合同保健委員会を行った。事前に各校の防災対策について調べ報告した。その後、防災ライフハック体験として、太陽熱でお湯を沸かしてラーメンを作り、牛乳パックで作成したお椀で食べた。また、段ボールで強固な椅子も作成した。



市役所訪問



山工の防災対策報告



太陽熱でラーメン



段ボールイス作り

- ・ 令和7年12月16日(火曜日)各校4名の代表者が宇部工業高校にて全校生徒に今まで学んだことや体験したことを報告し、防災意識を高めるために〇×クイズ大会を開催する。同じことを12月23日(火曜日)に宇部中央高校でも開催する。

(\*1 山工…宇部工業高校の略称)

## 3 成果と今後の課題等

他校と同じ目標に向かって活動することは、保健委員にとってパワーとなった。また、それぞれの学校で異なった学びをしてきた同世代が活動することで、防災対策を考え実行する高校生が増える機会となった。教師も生徒も校内の防災対策を考える必要性を感じた。この活動が家庭内でも広がり、今後はそれぞれの地域で活動する一歩となることを期待する。

取組名	熱中症予防と応急処置～実践から啓発活動へ～		
特徴	熱中症予防と熱中症が疑われる場合の応急処置について学んだ。		
学校名	山口県立下関北高等学校	期日	令和7年7月3日（木曜日）

### 1 ねらい

- 学校や地域の安全について、生徒自身がテーマを選び、適切な対応ができる知識や技能を身につける。
- 身につけた知識や技能を、学校内や地域の方へわかりやすく伝える。

### 2 概要

#### 熱中症の予防と熱中症が疑われるときの応急処置

- ・本校の養護教諭から、熱中症についての基本的な知識と応急処置について説明を受けた。効率的に体を冷やす方法のひとつとして紹介された「氷水を入れた洗面器やバケツに手足をつける」を実際に体験した。また、訓練用の人形を用いて心臓マッサージの練習を行った。
- ・その後、実際に人が倒れているという想定で、応急処置の練習を行った。第一発見者役の生徒が倒れている人（人形）の様子を確認し、周囲の生徒に指示を出し、119番通報を行う、体育館入口までAEDを取りに行く、救急車が到着するまで交代で心臓マッサージを行うの各役割に分かれ、実践練習を行った。



養護教諭による講習



氷水で手を冷やす様子



氷水で足を冷やす様子



交代で心臓マッサージをする様子



AEDを取り出す様子



実践の様子

### 3 成果と今後の課題等

- 学んだ知識をもとにすぐに実践練習を行ったことで、生徒はより主体的に活動に取り組み、理解が深まった。
- 今回得た知識や実践をもとに、熱中症予防とその応急処置について啓発する活動に取り組んでいる。ポスターと動画を作成し、来年掲示予定である。

取組名	地震災害時の避難訓練（安全教育）		
特徴	強い揺れ時の行動、余震時の行動、けが人が出た時の行動を認識する		
学校名	山口県立下関工科高等学校	期日	令和6年12月23日（月曜日）

## 1 ねらい

- 授業中に強い揺れの地震が発生した場合、状況を的確に判断し、冷静な判断に基づいて対処することを最優先するといった教職員の安全意識の向上と危機対応能力の強化を図る。
- 生徒一人一人の防災意識の高揚を図り、自らの安全を確保する能力を身に付けさせると共に、周囲の人や社会の安全に貢献できる力を養成する。

## 2 概要

### (1) 職員会議で「令和6年度防災教育研修会」の復命講習

- ・ 令和6年12月17日（火曜日）の職員会議で標記避難訓練の説明及び「令和6年度防災教育研修会」の復命講習を実施し、地震発生時の様々な危険場面と被災地教員手記による被災現場の生徒・教職員の実態を把握した。

### (2) 避難訓練実施

- ・ 令和6年12月23日（月曜日）11時00分～11時30分に全校生徒581人、教職員61人の参加で「強い揺れと余震を伴った地震での避難訓練」を実施した。
- ・ 地震の訓練実施のアナウンス。
- ・ 安全確保の方法について説明。
- ・ 「教室の窓ガラスが割れる」「棚が倒れる」「電灯やパイプの破損が起きる」「避難中に余震が起こる」「けが人が出る」の想定で「机の下にはいる」「棚や窓から離れる」「余震が起こったら、なるべく安全な場所を見つけてその場にしゃがむ」「負傷者を担架で運ぶ」等を実演した。



廊下での避難の様



グラウンド集合



担架で負傷した生徒を運搬

## 3 成果と今後の課題等

- 事前の職員研修により、地震発生時の様々な危険場面と被災地教員の記録による被災現場の生徒・教職員の実態を知ることができた。
- 負傷した生徒を担架で運ぶ経験を通して、担架の保管場所、運搬時に注意することが実体験することができた。
- 実際に地震に遭遇した際には、さらにパニックになりやすいと思われるが、訓練することで、落ち着いた判断と行動ができるのではないかと改めて実感した。

取組名	消火機器を実際に使用した避難訓練の実施		
特徴	全教職員が消火栓と消火器を実際に使用した訓練を行い、生徒は訓練用消火器の使用を体験した。		
学校名	山口県立萩高等学校奈古分校	期日	令和7年7月14日（月曜日）

## 1 ねらい

- 教職員：万が一の火災に備え、全教職員が消火栓と消火器の使用を体験して、正しい使い方を習得する。
- 生徒：避難訓練の一環として消火器の使用体験を行い、基本的な操作方法を学ぶ。

## 2 概要

### (1) 避難について

- ・実際に煙を発生させ、煙から離れるルートで避難する。



避難の様子

→

### (2) 消火器・消火栓の使用について

- ・全教職員が消火器および消火栓の使用を体験。生徒は消火器の使用を体験。



消防署による消火栓指導

全校生徒による消火器体験

### (3) 煙の危険を体験

- ・煙を充満させた部屋を通り抜け、煙の怖さを体験する。



煙体験の様子

## 3 成果と今後の課題等

実際の災害時における初期対応力の向上に大きく寄与することができた。また、消火器の操作方法や消火栓の仕組みを実際に体験することで、知識だけでなく実践的なスキルを身につけることができた。

体験を一度きりのものにせず、継続的な訓練を通じて習熟度を高めていく必要がある。また、災害時の役割分担や連携体制の更なる強化、地域との連携を視野に入れた訓練の実施も検討していくことが求められる。

取組名	災害時における避難訓練・AED講習会		
特徴	災害発生時、状況に応じた柔軟な避難（対応）ができる力を身につけた。		
学校名	山口県立下関中等教育学校	期日	令和7年 7月18日（金曜日） 令和7年12月 1日（月曜日）

## 1 ねらい

- 複合災害（地震・火災・土砂崩れ）発生時の安全確保行動や避難方法・経路などを確認し、状況に応じた判断や行動を実践できるようにする。
- AEDの講習で実技を身につけることにより、より多くの教職員が緊急時に適切な対応を行うためのスキルを身につける。

## 2 概要

### (1) 複合災害を想定した避難訓練

- ・ 令和7年7月18日（金曜日）に複合災害を想定した避難訓練を実施。緊急地震速報を放送したあと地震に伴う火災が校内で発生、放送の指示に従ってアリーナへ避難を行った。
- ・ 教職員は生徒の安全な避難誘導とともに火災発生場所の特定し関係機関への連絡を行った。



移動の様子



アリーナへの集合



アリーナでの講評

### (2) AEDの実践指導

- ・ 令和7年12月1日（月曜日）下関消防局西消防署から2名の講師の方にお越しいただき、AEDの基本的な操作や留意点などを学んだ。
- ・ グループに分かれ、AEDを活用したより実践的な演習を行った。



全体での説明



操作方法の確認



グループに分かれての演習

## 3 成果と今後の課題等

- 複合災害を想定した避難訓練であったが、安全に生徒全員が避難することができた。教職員間の情報伝達の確認ができた。
- AEDの講習を通してより多くの教職員が自信をもち、正しい操作ができるようになり、緊急時の対応ができる体制がより一層整った。
- 敷地が広いので、火災発生場所の特定に時間がかかることや、情報の共有や伝達のより一層の迅速化が課題である。

取組名	地域と取り組む防災について		
特徴	コミュニティスクール（学校運営協議会）で防災の熟議を行う		
学校名	山口県立山口南総合支援学校	期日	令和7年9月25日（木曜日）

### 1 ねらい（学校と地域でできること）

- 大規模災害が発生した場合の幼児・児童・生徒の対応周知、教職員の動きを確認する。
- 大規模災害机上シミュレーションを教職員と地域住民と考える。

### 2 概要

#### (1) 避難訓練年4回実施

- ・火災避難訓練と非常食体験（7月）、大規模災害机上シミュレーション（8月）、不審者避難訓練（9月）、防災デー避難訓練（2月）
- ・敏速な避難訓練と引き渡しの名簿の確認、教職員の防災時の仕事確認と点検

#### (2) 大規模災害机上シミュレーション

- ・教職員研修として夏季休業中に実施、非常食購入の呼びかけ
- ・学校運営協議会の議題として（熟議）を実施。



防災士の説明



地域の方々と熟議



意見を交わす



意見の分類



子どもたちの安心・安全

### 3 成果と今後の課題

- 引渡し終了までの二次避難所運営の確立と鑄銭司交流センターとの連絡情報交換ができた。
- 時系列ごとにアナウンスしながら熟議を進めたことで、具体的な意見交換することができた。
- 山口市防災士による丁寧な説明を受け、関係者が避難所を設営する際の注意点を深く考えることができた。
- 防災地図を見ながら現在の学校が置かれている危険性を視覚的に理解できた。
- 今回の熟議で想定できる基本的なながれを確認できたが、これは、起こりうる想定のみならず場面を取り上げたに過ぎない。
- 災害時の学校だけの避難対応が「想定外でした」では許されない状況にある。
- 生徒は、ほとんど地域外から来ているが起こりうる災害に対して、学校・地域・教職員・家庭が連携し、心をつなげて全員で乗り切らなければならない。